秋田市中心市街地の賑わい創出に向けた
交通環境改善調査　報告書

２０２３年３月

秋田商工会議所

【目次】

はじめに（調査目的・背景）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅰ．中心市街地の交通環境の現状認識
１．中心市街地の交通環境等の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
２．中心市街地の交通のあり方に係る研究会の調査結果に関する分析・・・・・・7
３．交通環境に関する取組の変化
（１）国土交通省の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
（２）賑わい創出を目的に一方通行規制を解除した事例・・・・・・・・・・・・・１２

Ⅱ．対面通行化による効果の検証
１．調査方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
２．調査内容
（１）広小路と中央通りの交通動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
（２）来街者アンケートの分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
（３）対面通行化のメリット・デメリット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０
（４）対面通行化の有効性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５８
（５）ハード・ソフト事業による相乗効果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９

Ⅲ．総評・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６０

はじめに（調査目的・背景）

- 秋田市中心市街地では、あきた芸術劇場ミルハスの開館による来街者の増加や、民間マンションの整備計画による居住人口の増加が期待されている。また、中心市街地の公道を歩行者天国化する大規模催事（広小路バザール等）が開催され、定期的に大規模な賑わいが創出されている。（秋田市の取組イメージ次頁参照）
- 広小路バザールは、第2期秋田市中心市街地活性化基本計画（2017年4月～2022年3月）の基本コンセプトである「千秋公園と連携した城下町ルネッサンス」を具現化する役割を果たし、中心市街地の東西軸・南北軸を結ぶ賑わいを創出している。また、周辺商店街や施設の催事と連携し、賑わいの波及効果を生み出している。（波及効果イメージ３頁参照）
- 秋田市は、2022年度中に中心市街地活性化プランを策定し、中心市街地活性化に継続して取り組むこととしている。本プランの基本コンセプトは第2期基本計画を踏襲し、「集い・楽しみ・住み・創る・選ばれるまち。～城下町ルネッサンスの継承～」としている。
- 中心市街地の交通環境について、千秋広面線の手形陸橋4車線化が実現したほか千秋久保田町線の対面通行化が開始されたことで、秋田駅東西のアクセス性が向上するなど、交通環境は大きく変化している。（2028年には千秋山崎線が整備予定であり、更なるアクセス向上が見込まれる）
- 秋田商工会議所では、これら中心市街地交通環境の変化や賑わい創出の観点を踏まえ、中心市街地の賑わい創出に向けた交通環境改善調査事業を実施する。

はじめに（調査目的・背景）

●秋田市中心市街地の動向、各種取組

市

【秋田市の現状】

人口減少・高齢化により中心市街地の賑わいが減退

市

【秋田市中心市街地活性化基本計画】

中心市街地の課題を踏まえて・・・

ハード・ソフト事業の取り組みを推進

- 中心市街地活性化の取組
  - ハード事業
    - あきた芸術劇場ミルハス、秋田市文化創造館、エリアなかいち → 来街者増加
    - 民間マンション建設 → 居住人口増加
    - 大型商業施設のリニューアル → 生活機能向上
    - 千秋久保田町線※の対面通行化 → 駅西側のアクセス向上
    - 千秋山崎線※の開通（予定） → 駅東西間のアクセス向上
  - ソフト事業
    - イベント開催 → 定期的な賑わい創出
    - 駐車サービス券事業 → 回遊性向上
    - まち歩き情報の発信 → 回遊性向上

※秋田市都市計画道路の名称

はじめに（調査目的・背景）

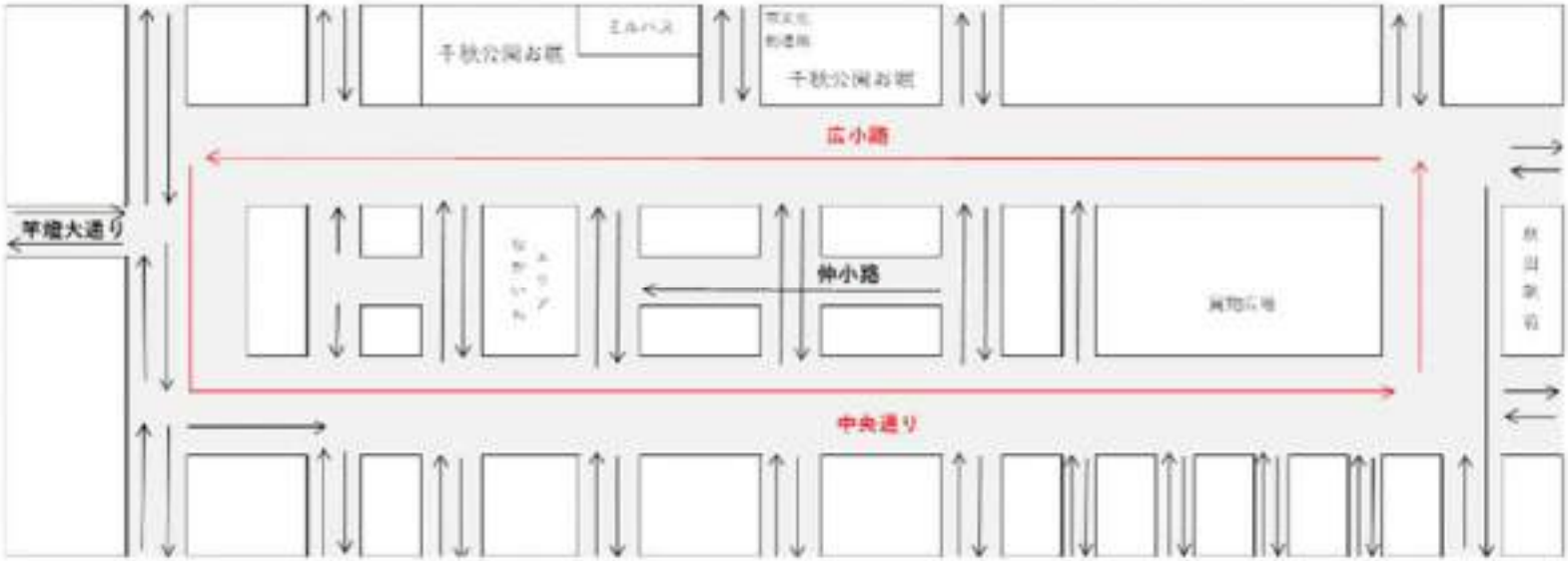
（参考）広小路バザールの波及効果イメージ　※広小路バザール調査・研究資料（2020年作成）より引用

Ⅰ．中心市街地の交通環境の現状認識

1．中心市街地の交通環境等の変化

1970年代、車社会の到来とともに増加する交通量により、秋田市中心市街地では慢性的な交通渋滞が発生していた。1974年7月、対面通行であった広小路および中央通りをそれぞれ一方通行規制し渋滞緩和を図った。しかし、中央通り南側、広小路北側はアクセスしにくい環境となり、賑わい低下の一因となった。

【参考①】現在の秋田市中心市街地の交通の流れ



Ⅰ．中心市街地の交通環境の現状認識

その後、日赤病院の移転や大規模店舗の閉店・移転・縮小など中心市街地の集客力が減退する一方、道路交通網の整備は進み、明田地下道の開通、秋田中央道路の開通、南大通りの対面通行化など交通量の分散により、渋滞緩和が図られている。

直近においては、2019年11月に千秋広面線の手形陸橋が4車線化したほか、2021年3月に千秋久保田町線が対面通行化するなど、中心市街地の交通環境は大きく変化している。また、2028年には駅東西の新たなアクセスルートとなる千秋山崎線の開通が予定されている。

2022年6月5日、あきた芸術劇場ミルハスが開館し、9月23日のグランドオープン以降は大規模な文化催事が相次いで開催されており、今後も多くの来館者で中心市街地が賑わうことが期待される。

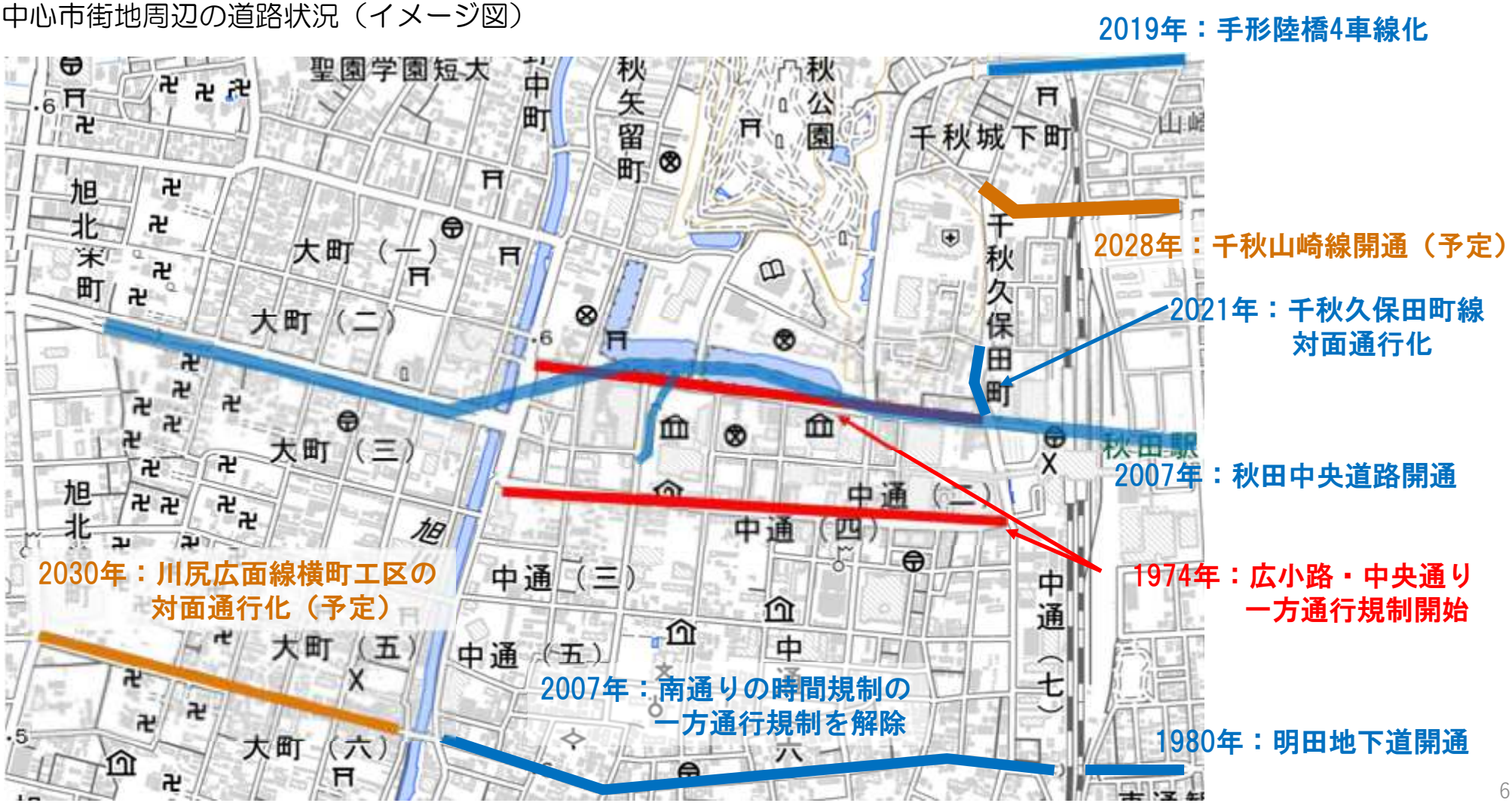
✓ 中心市街地の交通環境について、従来の自動車通行のための観点だけでなく、賑わい創出の観点から改善・検証を行う必要がある。

【参考②】一方通行規制開始からこれまでの中心市街地の状況

1974年	広小路、中央通りの一方通行規制開始
1980年	秋田ショッピングセンター（イトーヨーカ堂）がオープン、明田地下道が開通
1984年	買い物広場設置、広小路にアーケード設置
1989年	アトリオンがオープンし、婦人会館がアトリオンに移転
1992年	セントラルデパートが閉店、協働社本店が閉店
1993年	県立図書館、県公文書館が移転
1994年	マルサンショッピングセンターが閉店
1995年	秋田駅リニューアル、トピコが開業
1998年	秋田赤十字病院が移転
2002年	ダイエー秋田店が撤退
2007年	秋田中央道路が開通、南大通りの時間規制の一方通行規制を解除
2010年	秋田ニューシティが閉館、イトーヨーカ堂が撤退（翌年フォンテＡＫＩＴＡに）
2012年	イーホテルショッピングモールが閉店、エリアなかいちがオープン
2013年	広小路アーケード一部を残し撤去、旧秋田県立美術館が移転、秋田農林ビル解体
2017年	秋田駅リニューアル、秋田フォーラスが秋田オーパとしてリニューアルオープン
2018年	秋田県民会館の解体開始
2019年	手形陸橋が4車線化
2021年	千秋久保田町線が対面通行化、秋田市文化創造館が開館
2022年	あきた芸術劇場ミルハスが開館
2028年	千秋山崎線が開通（予定）
2030年	川尻広面線横町工区が対面通行化（予定）

Ⅰ．中心市街地の交通環境の現状認識

【参考③】中心市街地周辺の道路状況（イメージ図）



2. 中心市街地の交通のあり方に係る研究会の調査結果に関する分析

2019年3月、県・秋田市の関連部署で構成される中心市街地の交通のあり方に係る研究会（以下、研究会という）が取りまとめた調査結果によると、「広小路と中央通りの一方通行規制を解除した場合、交通渋滞が懸念されるか、解除のために多額の用地補償費および工事費が発生するため、現時点での規制解除は困難」とし、「千秋山崎線等の整備による交通環境の変化や交通量の動向などを引き続き注視していく」と結論づけている。

一方通行解除の判断材料が渋滞発生の有無に偏重しており、研究会の目的である「中心市街地の賑わいの観点」を取り入れた調査とは言いがたい結論となっている。

なお、調査結果には「一方通行規制の解除の際には、現状3車線をどのような形で対面通行にするのか、また、右折レーンの確保やバス路線の在り方等の課題もあることから、民間の関係者や専門家も交え、幅広い意見を集約してその方向性について検討されるべき」と記載されている。

３．交通環境に関する取組の変化

（1）国土交通省の取組

国土交通省では、道路空間について自動車の安全かつ円滑な通行を主目的としてきたが、社会・経済情勢の変化に応じ、人中心の賑わい創出等に資する空間へと再構築する取組を推進している。

2004年：路上イベント等における道路占用許可の弾力的運用を開始 2011年：道路占用許可申請の手続き簡素化を開始 2020年：歩行者利便増進道路制度（通称：ほこみち制度）を創設 居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりの取組を法律・予算・税制等のパッケージにより支援（まちなかウォーカブル推進事業等）

（参考①）道路占用許可の弾力的運用

地域活性化、賑わい創出等の観点から以下のとおり道路占用許可の弾力的な判断を行うことで、道路管理者として路上イベントの開催を支援するもの。

- 特定の曜日など継続的かつ反復的に開催されるイベントについて、都度申請を行わせないなど必要以上の申請を求めないこと。
- 路上イベントに伴う道路占用許可基準に該当しない場合であっても、個別具体の事例に応じて、実施主体に適切な助言、情報提供等を行い、道路占有の円滑化に配慮すること。

（参考②）道路占用許可申請の手続き簡素化

道路占有許可が取得しやすくなるよう、以下のとおり申請手続きの簡素化および一層の弾力的運用を図るもの。

- 道路管理者は、道路占有許可手続きの事前相談対応を実施することを周知すること。事前相談の際は、占用物件の管理体制や占用目的を実質的に検討し、占用希望者に適切な助言を行うこと。
- 合理的な範囲において1枚の道路占用許可申請書に複数の物件を記載させて一括申請させること。
- 道路占用許可申請書の添付書類について、申請者に過度な負担をかけないよう留意すること。
- 道路占用許可と道路使用許可の両方が必要な場合、道路管理者または警察署長のいずれか一方を経由し一括申請が可能。道路管理者は、警察に対し速やかに申請書等を送付し制度の円滑な運用に努めること。

Ⅰ．中心市街地の交通環境の現状認識

（参考③）歩行者利便増進道路制度（通称：ほこみち制度）／　活用事例：奈良県奈良市

「道路空間を街の活性化に活用したい」などの道路への新しいニーズが高まっていることを踏まえ、道路空間の構築を行いやすくするために道路法等を改正し創設するもの。

【制度の特徴（メリット）】
- 道路管理者が歩道の中に、“歩行者の利便増進を図る空間”を定めることができる。
- 特例区域を定めることで、道路空間を活用する際に必要となる道路占用許可が柔軟に認められる。
- 道路管理者が道路空間を活用する者を公募により選定することが可能となる。（最長20年の占用が可能）

【活用事例：奈良県奈良市】

くつろぎや賑わいの空間を創出するため、歩道に人工芝を敷設し、テー ブルや椅子、ハンモック等を設置する社会実験を実施。
（2021年10月）

✓ 全国的に歩行者天国による道路空間の利活用が推進されている。

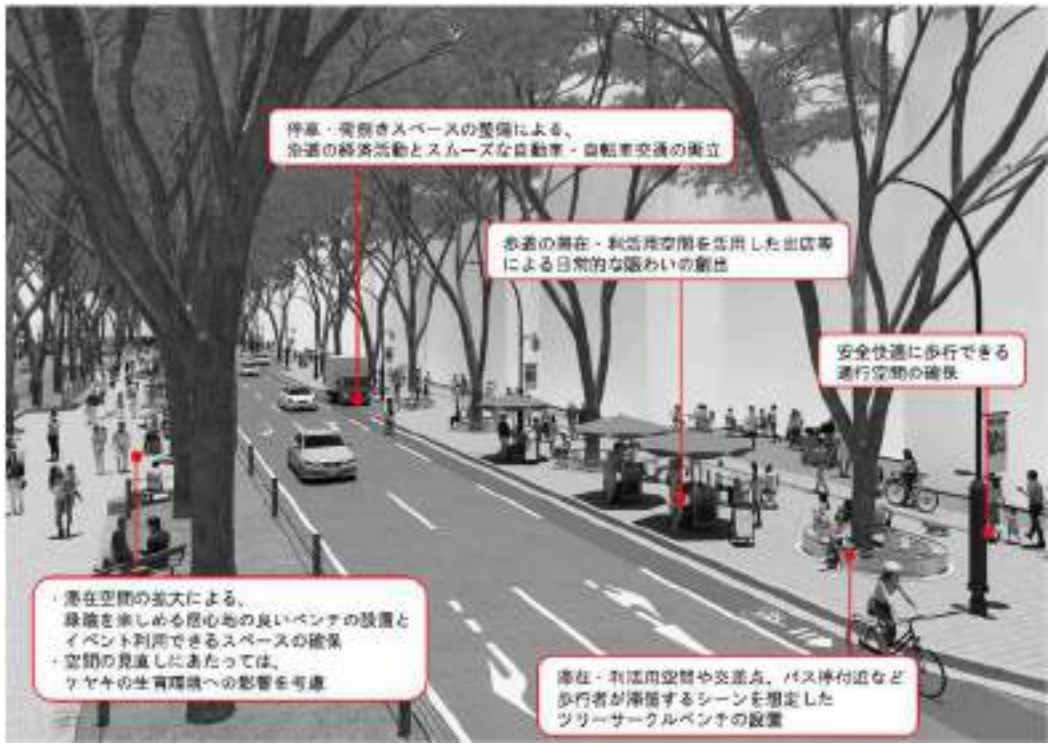
Ⅰ．中心市街地の交通環境の現状認識

（参考④）ウォーカブル推進事業　／　活用事例：宮城県仙台市

車中心から人中心の空間へと転換を図る、まちなかの歩いて移動できる範囲において、滞在の快適性の向上を目的として市町村や民間事業者が実施する、道路・公演・広場等の整備や修復・利活用、滞在環境の向上に資する取組を重点的・一体的に支援し、居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりを推進する事業。

※都市再生特別措置法等を一部改正し創設

【交付金】市町村、市町村都市再生協議会　国費率：1/2　【補助金】都道府県、民間事業者等　国費率：1/2



【活用事例：宮城県仙台市 】

2017年：定禅寺通エリア活性化に向けた取組を開始

2021年：勾当台・定禅寺通エリアビジョンを策定

2022年：<u>定禅寺通の片側1車線（1部2車線削減）を削減する大規模社会実験を実施</u>
※削減した車線は、歩行者空間や自転車専用道として活用

・上記取組を踏まえ、日常的な賑わい創出等に向けた「<u>定禅寺通再整備方針</u>」を策定予定

Ⅰ．中心市街地の交通環境の現状認識

（2）賑わい創出を目的に一方通行規制を解除した事例　／　山形県鶴岡市

（2022年に規制解除した南銀座通り
※鶴岡市役所ウェブサイトより引用）

1974年：渋滞緩和策として一方通行規制を開始。

2016年：中心商店街の活性化やアクセス向上などを目的に“みゆき通り”を対面通行化。

2022年：新たに“南銀座通り”を対面通行化し、今後も段階的に規制解除をする方針。

2016 年対面通行化

（その他の中心市街地等の一方通行解除の事例）
- 山形県米沢市：2022年4月解除
- 青森県三沢市：2022年7月解除

✓ エリア内の賑わい創出に向け一方通行規制を解除する地域が多数存在する。

Ⅰ．中心市街地の交通環境の現状認識

（2）賑わい創出を目的に一方通行規制を解除した事例　／　山形県鶴岡市

一方通行規制を解除した経緯

背景	・鶴岡市では自動車交通の処理を主体として都市計画を行ってきた。一方、市内で空き家となった土地が駐車場に転換される状況下で一方通行によるアクセス性や場所の分かりにくさなどの要因から、駐車場の利用率も低く利便性向上が課題となっている。 ・食文化等の地域資源の魅力により、観光地への誘客は堅調に推移しているものの、中心市街地への波及効果までには至っていない。 ・市北部地区の先端研究産業などを核とした新たな交流人口の拡大が期待されることから、中心市街地への交流促進を創出する賑わい機能の整備が必要とされる。
目的	・歩行者の安全性や快適性を高め、回遊性を向上させる。 ・中心市街地へのアクセス性を向上させる。
内容	・段階的に一方通行を解除し、道路の改良等を進めている。 ①南銀座通り　②一日市通り　③川端通り　④神楽橋十三軒町線 ⑤大泉橋交差点 ⑥千歳通り　（実施時期H28-R2）

実施区域

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

１．調査方針

・研究会が取りまとめた調査結果を踏まえつつ、

（１）広小路と中央通りの交通動向
（２）賑わい創出の観点による対面通行化のメリット・デメリット
（３）来街者アンケートの分析
（４）対面通行化の有効性

（1）（2）を中心に整理し、（3）の分析結果等を踏まえ（4）について考察する。

（調査に関するその他事項）

・拡幅工事等を要しない現状の車線数を維持した交通方法で対面通行化を検証する。

2．調査内容

（1）広小路と中央通りの交通動向

●広小路と中央通りの交通量

広小路と中央通りの交通量は、研究会の調査結果（2017年度実施） によると秋田中央道路開通後から更に減少している。

（台／日）

調査日	広小路 （2007年9月比）	中央通り （2007年9月比）	備　考
2007年9月6日（木）	15,121	15,224	中央道路開通前
2007年10月17日（水）	11,633（▲3,488）	14,783（▲441）	中央道路開通後
2017年10月17日（火）	10,638（▲4,483）	13,297（▲1,927）	

※調査地点は、広小路（東北電力付近）、中央通り（山二ビル付近）

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

●千秋久保田町線開通後の交通動向

千秋久保田町線開通後の交通動向について、秋田県渋滞対策推進協議会（会長：東北地方整備局秋田河川国道事務所長）が2021年度に実施したモニタリング結果によると、以下の効果が見受けられる。

①緑屋前交差点への南方向からの自動車流入速度が改善（開通前と比較し最大9km/h向上）

②久保田町交差点への東方向からの自動車流入速度が改善（開通前と比較し最大8km/h向上）

※緑屋前交差点から北側へ通行できるようになり、通行量の分散・速度向上に繋がったと想定。

③久保田町交差点への東方向からの交通量（1時間あたり）が減少傾向にある（-160～+8台/h）

✓ 研究会の調査以降、千秋久保田町線が対面通行化されたことにより、中心市街地内の交通量が分散した。千秋山崎線の開通により、更なる交通量の分散が見込まれる。

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

（参考①）秋田県渋滞対策推進協議会の調査資料（抜粋）

← （千秋久保田町周辺図）

↓（久保田町交差点の交通量変化）

（参考②）秋田市内の自動車保有台数（秋田市統計情報より）
市内自動車保有台数は、２０１９年度以降、減少傾向となっている。

各年3月末時点（単位：台）

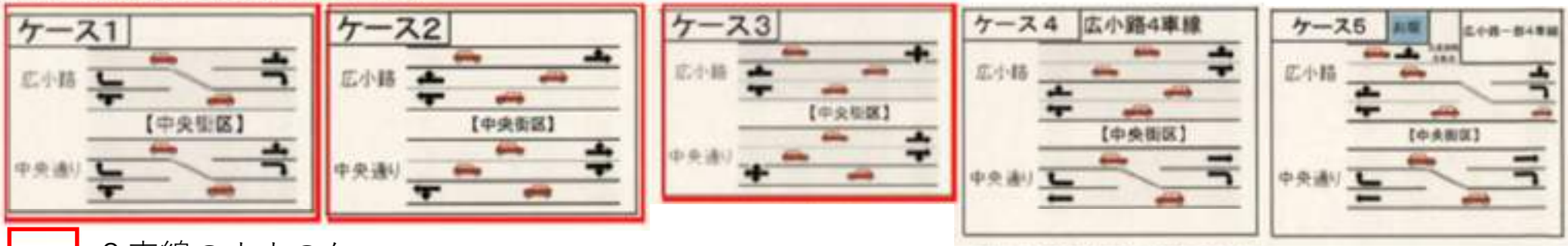
2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
229,589	230,805	231,507	231,448	227,608	227,474

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

●研究会シミュレーション結果①　／　実施方法

研究会が2017年に実施した対面通行化のシミュレーション結果によると、現行の3車線を維持した場合、交通容量・滞留長に関する影響は次頁以降のとおり想定される。

（研究会が想定した５つのケース）



３車線のままのケース

＜現状の車線数維持＞

ケース１　内1車線+右折レーン+外1車線

ケース２　内2車線+外1車線　※外車線は右折禁止（外車線から中央街区へ進入不可）

ケース３　内2車線+外1車線　※ケース２と違い外車線の右折を可能とする

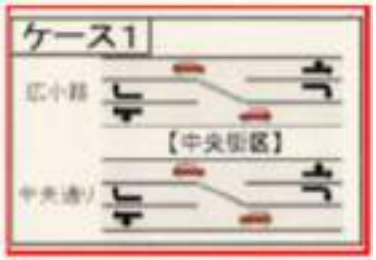
＜広小路を4車線に拡幅＞

ケース４　広小路：片側2車線　　中央通り：片側1車線+右折レーン設置

ケース５　広小路：久保田町交差点以西片側2車線、同交差点以東片側1車線+右折レーン設置
　　中央通り：片側1車線+右折レーン設置

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

●研究会シミュレーション結果②　／　交通容量



単位：千台／日

			現況	ケース１	ケース２	ケース３
交通容量（設計基準交通量）			18	8	16反時計回り12 時計回り4	16反時計回り12 時計回り4
広小路	秋田駅前～久保田町	2017	9	8	8	
		2022	8	8	7	6
	久保田町～千秋公園	2017	11	9	12	
		2022	11	9	12	11
	千秋公園～広小路西	2017	14	14	15	
		2022	13	12	13	15
中央通り	秋田駅前～中通二丁目	2017	14	9	15	
		2022	14	9	15	16
	中通二丁目～北都銀行	2017	17	10	18	
		2022	16	10	17	18

※網掛け欄：交通容量に対して推計交通量が上回る区間　　※推計交通量は区間の最大値を記載
※2022年の数値は、2017年時点の予測値

●研究会シミュレーション結果③　／　滞留長

単位：ｍ

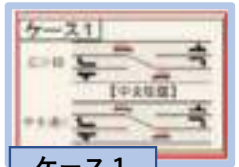
日時	箇所（方向）			現況	ケース１	ケース２	ケース３
平日 7時～9時	広小路 （千秋公園）	反時計回り	2017	90	250	110	
			2022	100	220	150	110
		時計回り	2017	–	10	10	
			2022	–	30	0	10
	中央通り （市民市場入口）	反時計回り	2017	60	80	80	
			2022	70	90	70	50
		時計回り	2017	–	30	30	
			2022	–	90	30	50
休日 イベント開催時 15時～17時	広小路 （千秋公園）	反時計回り	2017	180	210	100	
			2022	180	140	110	80
		時計回り	2017	–	20	30	
			2022	–	20	10	30
	中央通り （市民市場入口）	反時計回り	2017	80	70	60	
			2022	90	100	70	60
		時計回り	2017	–	60	50	
			2022	–	150	60	90

※網掛け欄：現況と比較して推計滞留長が長い箇所（方向）
※2022年の数値は、2017年時点の予測値

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

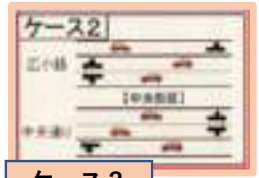
●研究会シミュレーション結果④　／　各ケースの課題

・研究会が、各ケースの課題を以下のとおりとりまとめている。



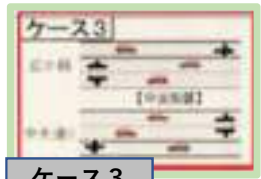
ケース１

・バス専用レーンの運用が不可能。バス運行に悪影響が生じることやバス停車による渋滞が発生。
・広小路および中央通りに接続する南北の道路全線に渡り渋滞が発生。



ケース２

・時計回り車線から中央街区への右折進入を禁止するケースであり、通行方法に制約が生じる。
・広小路ルートで西に向かう車両が中央通りに転換することで、土手長町通りを有楽町方面から北上する車両が、北都銀行本店前交差点において信号が青になっても進めず渋滞が発生。（休日）



ケース３

・時計回り車線において、右折車の停車による後続車両の渋滞が発生。
・ケース２の北都銀行本店前交差点の渋滞が更に顕著となる。

✓ 交通容量・滞留長の影響が少ないケース２について、交通容量に対し交通量が2,000台/日超過する箇所があり滞留長は現況から約50m超過する箇所があるが、本調査以降、千秋久保田町線が対面通行化したことで数値改善が期待できる。３つのケースの中では交通機能への影響が最小限と考えられる。
✓ また、路線バスや貨物集配車両の駐車時の対策として、バスベイや停車・荷捌きスペースの設置などを検討する必要がある。

●広小路・中央通りおよび周辺道路の現況調査①

・2022年12月23日（金）7：45～8：20の通勤時間帯に各ポイント箇所を撮影。
・当日は全国的な大規模寒波が到来し、年末・週末ということで、通常時よりも混雑が見受けられた。

秋田岩見船岡線（手形陸橋方面）

手形陸橋（千秋公園方面）

循環器・脳背椎センター前（広小路方面）

西、南方向に向かう車線では渋滞が見受けられた

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

●広小路・中央通りおよび周辺道路の現況調査②

久保田町交差点（駅方面）

同交差点（秋田市民市場方面）

広小路（東北電力NW前、大町方面）

広小路の信号待ち車両は「最大12台/車線」であり、渋滞は見受けられなかった

中央通り（秋田センタービル前、駅方面）

中央通り（同ビル前、エリアなかいち方面）

中央通り（岩田写真館前、大町方面）

中央通り信号待ち車両は「0～3台/車線」程度であり渋滞は見受けられなかった

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

●広小路･中央通りおよび周辺道路の現況調査③

土手長町通り（広小路西、北方面）　同通り（同地点、南方面）　同通り（同地点、西方面）

広小路および中央通りの接続箇所とその**周辺道路では、渋滞は見受けられなかった**

- ✓ 駅東側からのアクセスについて、手形陸橋、久保田町交差点などで渋滞が生じていたが、広小路に進入してからは渋滞が解消された。
- ✓ 中央通りについては、信号待ち車両が数台程度であった。
- ✓ 通常時よりも渋滞が生じやすい時間帯であったが、**広小路・中央通りともに目立った混雑は無く、交通機能の面で対面通行化を検討する余地はあると推測される。**

（２）来街者アンケートの分析

①調査方法／広小路バザール来場者へのアンケート

日　時：2022年9月18日（日）
時　間：10:00～15:00/交通規制時間8:30～16:30
会　場：広小路・中土橋通り
来場者：約40,000人

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

（参考）アンケート項目

広小路パザールに関する意識調査

秋田大学　理工学部　土木環境工学コース

秋田商工会議所

・調査用紙は両面に質問がございます。
・記載された QR コードより、Google フォームでのご回答も可能です。Google フォームで回答された場合、こちらの用紙は返送しないでください。
・郵送の場合、返信用封筒にこの用紙のみを入れ、10 月 2 日（日）までに郵送ポストにご投函ください。

Ⅰ．あなた自身のことについておたずねします。あてはまるものに○をつけてください。

問 1　あなたの性別をお答えください。
（1）男性　（2）女性

Google フォームはこちらから

問 2　あなたの年齢をお答えください。
（1）10 代　（2）20 代　（3）30 代　（4）40 代　（5）50 代　（6）60 代　（7）70 歳以上

問 3　現在、同居されている方をすべてお答えください。
（1）配偶者　（2）父・母　（3）子（未就学）　（4）子（小学生）　（5）子（中学生以上）
（6）祖父母　（7）兄弟・姉妹　（8）一人暮らし　（9）その他（　　）

問 4　あなたのお住まいをお答えください。※秋田市の場合は広面地域・新屋地域・御所野地域など、おおよその住所もお答えください。
（1）秋田市内（　　地域）　（2）秋田県内　（3）秋田県外

Ⅱ．秋田市中心市街地への訪問についておたずねします。あてはまるものに○をつけてください。

問 1　この一ヶ月での通勤・通学・仕事以外で中心市街地への訪問頻度をお答えください。
（1）ほぼ毎週　（2）月に 1～2 回程度　（3）訪問しなかった

問 2　通勤など以外で中心市街地を訪問する際、よく訪れる施設をすべてお答えください。（複数回答可）
（1）商業施設・店舗　（2）文化施設（音楽・芸術鑑賞・図書館など）　（3）飲食店
（4）千秋公園　（5）その他（　　）

問 3　通勤など以外で中心市街地を訪問する際、最も多く利用する交通手段を一つだけお答えください。
（1）自家用車　（2）バス　（3）鉄道　（4）タクシー
（5）徒歩　（6）自転車　（7）その他（　　）

問 4　問 3 で自家用車を選択した方へ、普段、利用することが多い駐車場を一つだけお答えください。
（1）アトリオン南駐車場　（2）なかいち駐車場　（3）秋田市公営駐車場
（4）秋田駅東駐車場　（5）トピコ・アルス第一駐車場　（6）アルヴェ駐車場（タイムズ）
（7）特に決めていない　（8）その他（　　）

問 5　通勤など以外で中心市街地でよく訪れるエリアをすべてお答えください。（複数回答可）
（1）秋田駅前　（2）広小路　（3）仲小路　（4）エリアなかいち・千秋公園周辺
（5）中通り　（6）大町・通町　（7）秋田市民市場周辺　（8）その他（　　）

問 6　通勤・通学・仕事以外で、中心市街地を訪問しやすいと感じるかをお答えください。
（1）訪問しやすい　（2）訪問しづらい　（3）どちらでもない

問 7　問 6 で「訪問しづらい」を選択した方は、訪問しづらいと感じる理由をすべてお答えください。（複数回答可）
（1）一方通行など道路がわかりにくい　（2）駐車場がわかりにくい　（3）駐車場料金が高い
（4）駐車場の数が少ない　（5）駐車場が停めにくい　（6）交通渋滞がある
（7）バスなどの運賃が高い　（8）バスなどの運行本数が少ない　（9）駐車場やバス停からの距離が遠い
（10）駐輪場の数が少ない　（11）その他（　　）

Ⅲ．イベントへの参加や休日の外出に対する意識についておたずねします。
あてはまるものに○をつけてください。

問 1　あなたはイベントに参加することが好きかをお答えください。
（1）好き　（2）やや好き　（3）どちらともいえない　（4）やや嫌い　（5）嫌い

問 2　あなたが参加したことがあるイベントをお答えください。（複数回答可）
（1）千秋公園桜まつり　（2）竿燈まつり　（3）これが秋田だ！食と芸能大祭典　（4）与次郎駅伝
（5）千秋花火　（6）土崎港曳山まつり　（7）大曲の花火　（8）七夕絵どうろうまつり
（9）花輪ばやし　（10）毛馬内盆踊り　（11）横手のかまくら　（12）横手の送り盆まつり
（13）参加したことがない　（14）その他（　　）

問 3　あなたが 1 年のうちに秋田県内でイベントに参加している頻度をお答えください。
（1）月に 3 回ほど　（2）月に 1～2 回ほど　（3）半年に 1～2 回ほど　（4）ほとんど参加しない

問 4　あなたが普段、イベントで消費するおおよその金額をお答えください。
（1）0 円以上 1,000 円未満　（2）1,000 円以上 3,000 円未満　（3）3,000 円以上 5,000 円未満
（4）5,000 円以上 10,000 円未満　（5）10,000 円以上

問 5　あなたがイベントで好き・楽しいと感じるところをお答えください。
（1）食べ物を楽しめる　（2）にぎわいを感じる　（3）買い物を楽しめる　（4）人と交流できる
（5）景色を楽しめる　（6）特にない　（7）その他（　　）

問 6　あなたがイベントで嫌い・楽しくないと感じるところをお答えください。
（1）大勢の人で混雑している　（2）道路が混雑する
（3）自分が楽しめる内容のイベントが少ない　（4）イベント自体に興味がない
（5）特にない　（6）その他（　　）

問 7　あなたは休日に外出をすることが好きかをお答えください。
（1）好き　（2）やや好き　（3）どちらともいえない　（4）やや嫌い　（5）嫌い

問 8　あなたが休日に外出する際によく出かける地域を一つだけお答えください
（1）中心市街地（秋田駅前など）　（2）御所野
（3）金島　（4）その他（　　）

調査用紙は裏に続きます。

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

Ⅳ．あなたが広小路バザールに参加した際の行動などについておたずねします。
あてはまるものに○をつけてください。

問 1　あなたの広小路バザールへの参加回数をお答えください。
（1）今回で 1 回目　（2）今回で 2 回目　（3）今回で 3 回目

問 2　本日、あなたは広小路バザールへ誰と来たかをお答えください。
（1）一人　（2）家族　（3）友人・知人　（4）恋人　（5）その他（　　）

問 3　あなたが本日の広小路バザールの開催を知ったきっかけをすべてお答えください。（複数回答可）
（1）新聞　（2）チラシ　（3）Web サイト　（4）SNS　（5）知人から
（6）TV の CM や TV 番組　（7）近くを通りかかった　（8）その他（　　）

問 4　あなたの広小路バザールまでの交通手段をお答えください。
（1）自家用車　（2）バス　（3）鉄道　（4）タクシー　（5）徒歩　（6）自転車
（7）その他（　　）

問 5　問 4 で自家用車を選択した方へ、自家用車はどの駐車場に停めたかをお答えください。
（1）アトリオン南駐車場　（2）なかいち駐車場　（3）秋田市公営駐車場
（4）秋田駅東駐車場　（5）トピコ・アルス第一駐車場　（6）アルヴェ駐車場（タイムズ）
（7）特に決めていない　（8）その他（　　）

問 6 あなたが訪れた広小路バザールのお店やイベントをすべてお答えください。（複数回答可）
（1）物産販売　（2）産直・園芸　（3）マリ・マリ・マルシェコーナー　（4）キッチンカー
（5）ご当地パラソルアイス　（6）スイーツ・カフェ・ベーカリー　（7）お堀でカヌー体験
（8）どこにも訪れていない

問 7 あなたが一番楽しいと感じたバザールのお店やイベントを一つだけお答えください。
（1）物産販売　（2）産直・園芸　（3）マリ・マリ・マルシェコーナー　（4）キッチンカー
（5）ご当地パラソルアイス　（6）スイーツ・カフェ・ベーカリー　（7）お堀でカヌー体験
（8）楽しいと感じたものはない

問 8　あなたが今回の広小路バザール会場内で消費したおおよその金額をお答えください。
（1）0 円以上 1,000 円未満　（2）1,000 円以上 3,000 円未満　（3）3,000 円以上 5,000 円未満
（4）5,000 円以上 10,000 円未満　（5）10,000 円以上

問 9　本日、あなたが広小路バザール以外の中心市街地で消費したおおよその金額をお答えください。
（1）0 円以上 1,000 円未満　（2）1,000 円以上 3,000 円未満　（3）3,000 円以上 5,000 円未満
（4）5,000 円以上 10,000 円未満　（5）10,000 円以上

問 10　本日、あなたが中心市街地で訪問した施設をすべてお答えください。（複数回答可）
（1）商業施設・店舗　（2）文化施設（音楽・芸術鑑賞・図書館など）　（3）飲食店
（4）千秋公園　（5）他に訪問した施設はない　（6）その他（　　）

問 11　本日、あなたが広小路バザール以外で参加したイベントをすべてお答えください。（複数回答可）
（1）ABS まつり.　（2）ミルハスミュージックフェス 2022
（3）まちなかこども広場（仲小路）　（4）あそびのはじまり 2022（秋田市文化創造）
（5）エキマエ、はじまる。さんど市（秋田駅西口駅前広場）　（6）その他（　　）

問 12　あなたが広小路バザールの歩行者天国について感じたことをすべてお答えください。（複数回答可）
（1）車が通らないので安全である　（2）車が通らないので歩きやすい　（3）人通りが多くにぎやかである
（4）非日常感が得られる　（5）感じたことはない　（6）その他（　　）

問 13　また広小路バザールに参加したいかをお答えください。
（1）参加したい　（2）どちらかといえば参加したい　（3）どちらともいえない
（4）どちらかといえば参加したくない　（5）参加したくない

Ⅴ.広小路バザールの満足度についておたずねします。該当する箇所 1 つに○印をつけてください。

	非常に満足	満足である	どちらでもない	満足でない	全く満足でない
問 1　会場までのアクセスが良いこと					
問 2　店舗数が多いこと					
問 3　人と交流ができること					
問 4　ゆっくりと過ごせること					
問 5　周辺の施設・イベントが多いこと					
問 6　会場の雰囲気が良いこと					
問 7　秋田の食べ物を楽しめること					
問 8　秋田の物産を楽しめること					
問 9　様々な体験を楽しめること					
問 10　会場内が移動しやすいこと					
問 11　会場案内などがわかりやすいこと					
問 12　広小路バザール全体の総合満足度					

最後に、広小路バザールや中心市街地について感じていることや思ったことがあれば、ご自由にお書きください。

調査は以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

②アンケート集計内容

配布数	600票
回収数	193票

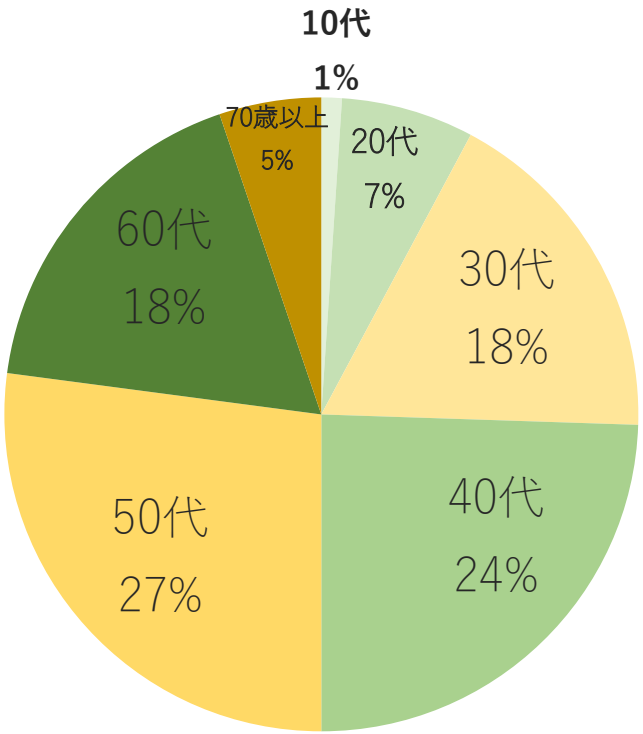


図　年代（n=192）

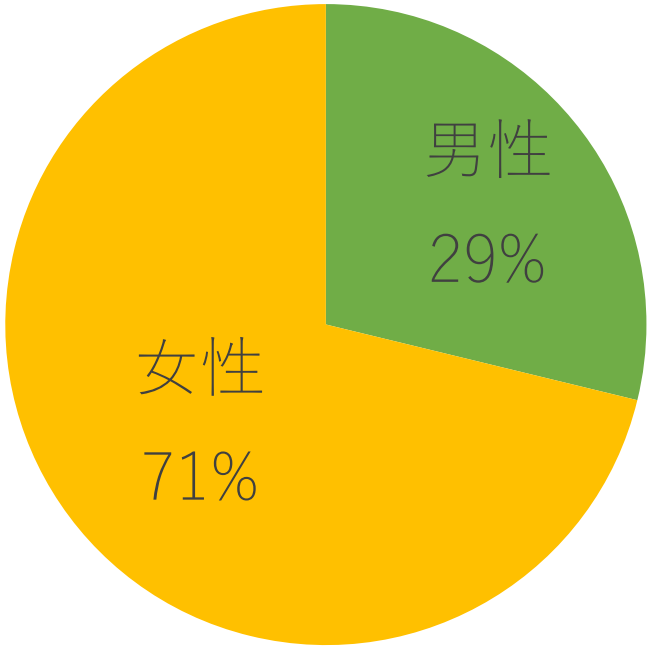


図　性別（n=191）

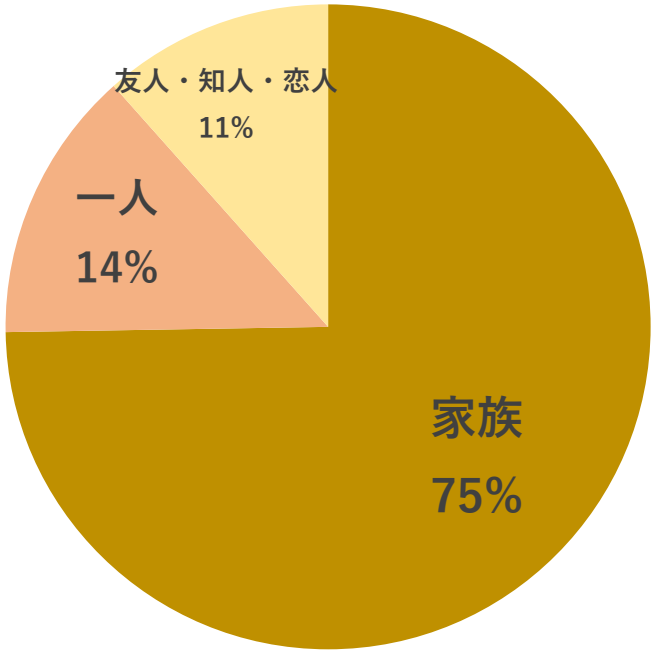


図　同伴者（n=190）

・アンケート回答者は年代が40～50代、性別は女性、同伴者は家族連れが多い結果となった。

③アンケート結果
●中心市街地への訪問実態①

・全ての訪問頻度において、「秋田駅前、エリアなかいち、秋田市民市場」が上位の来街エリアとなった。

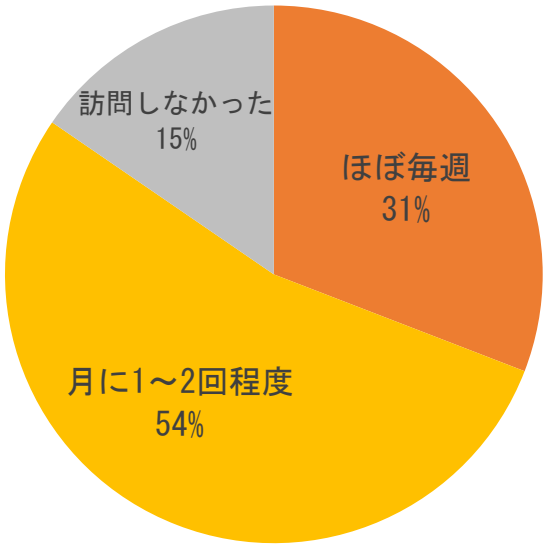


図　この一ヶ月での通勤・通学・仕事以外で中心市街地への訪問頻度（居住地が秋田市内）　[n=149]

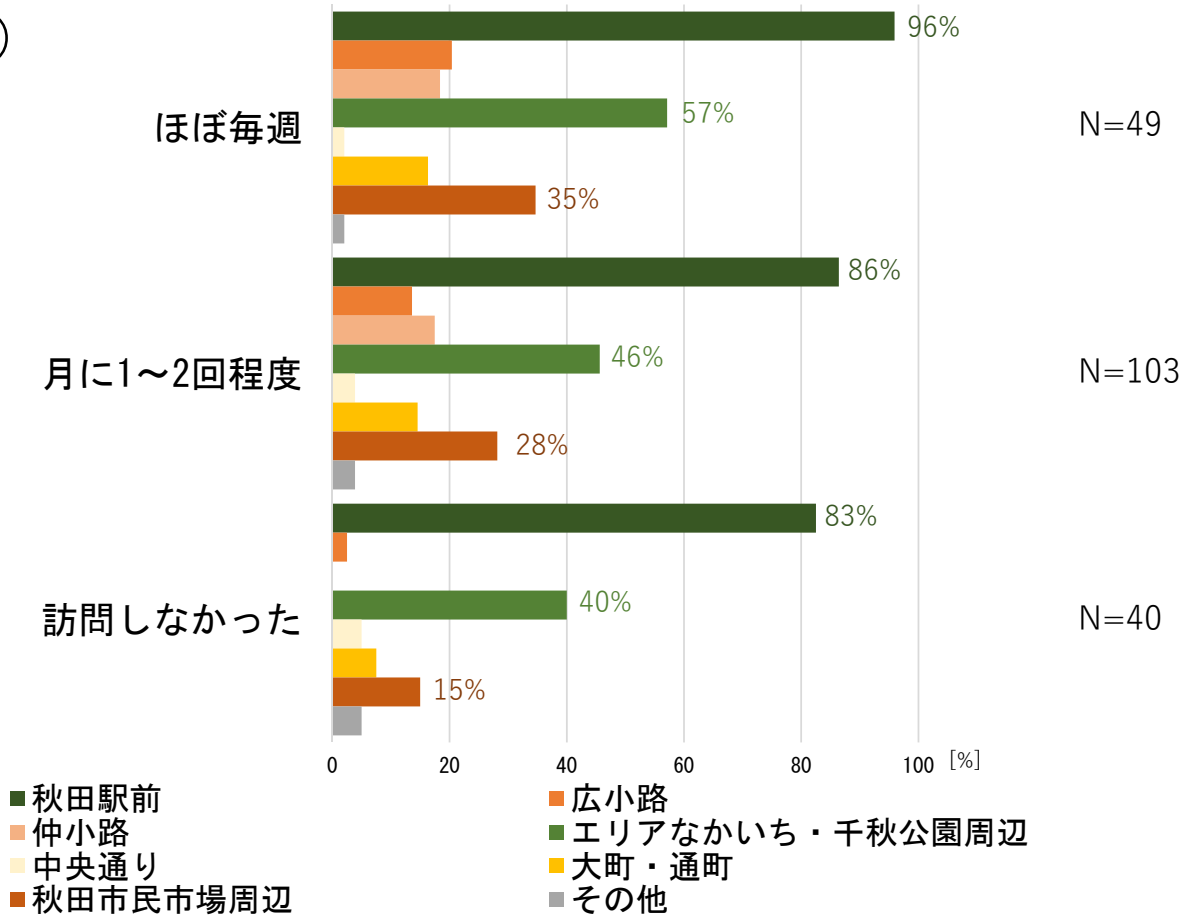


図　中心市街地への訪問頻度とそのエリアの内訳

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

●中心市街地への訪問実態②

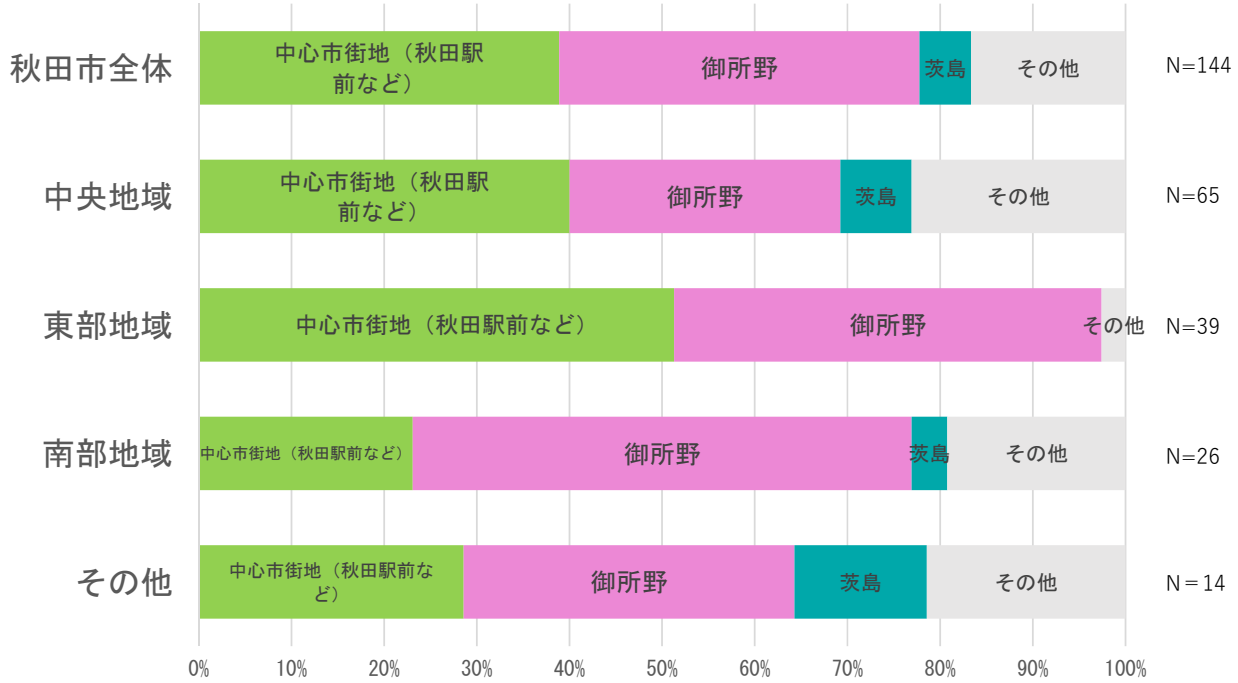


図　休日によく訪問する地域（居住地が秋田市内）

※その他の全体的な内訳として八橋、秋田市外などが多かった。

区割り図

※第１１次秋田市総合計画より

●中心市街地への訪問実態③

- 中央・東部地域の方の来街先は、中心市街地が御所野地域を多少上回っている。
- 南部地域の方は、買い物を完結できる大型ショッピングモール（イオンモール秋田）が立地しているため、中心市街地への訪問割合が低いと推測する。

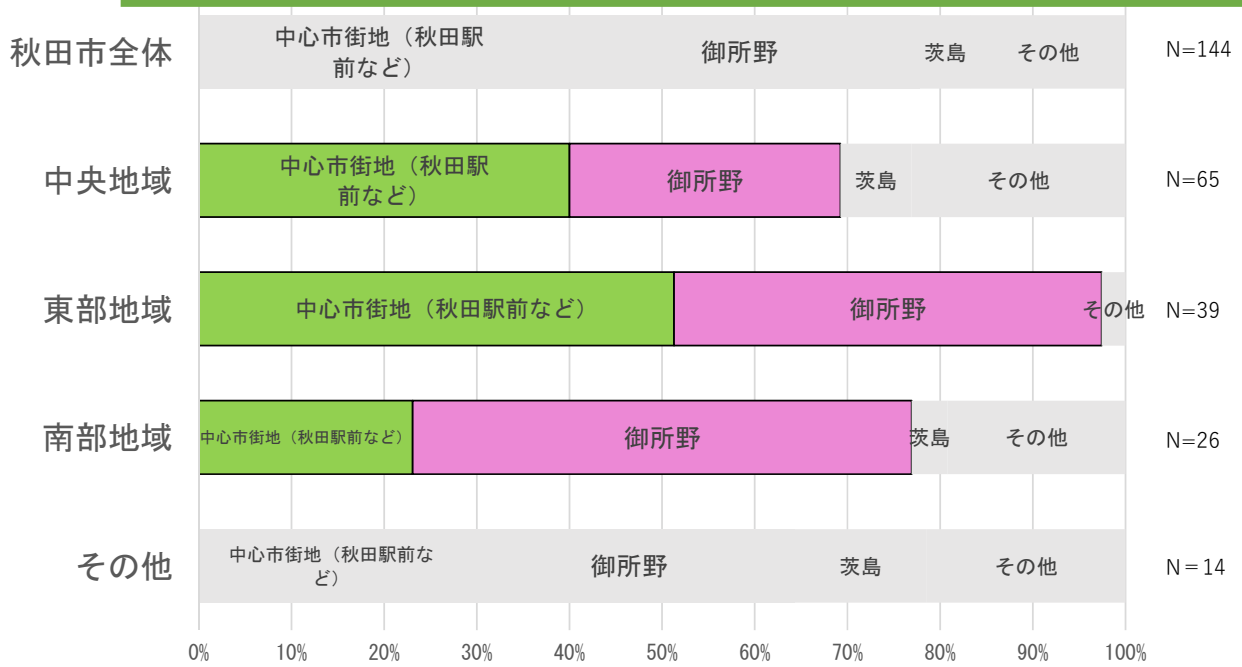


図　休日によく訪問する地域（居住地が秋田市内）

※その他の全体的な内訳として八橋、秋田市外などが多かった。

区割り図

※第11次秋田市総合計画より

●中心市街地への訪問実態④

- 中心市街地へ訪問しづらいと回答した方の割合は33%であり、そのうち、中心市街地への訪問頻度については、月に1～2回以下の割合が85%と低い傾向にある。

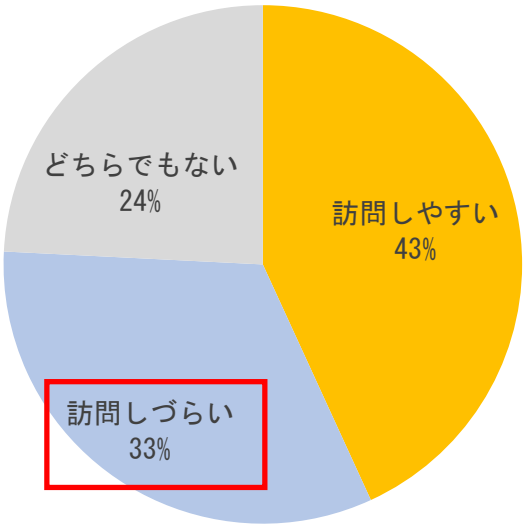


図　休日での中心市街地の訪問のしやすさ　[N=190]

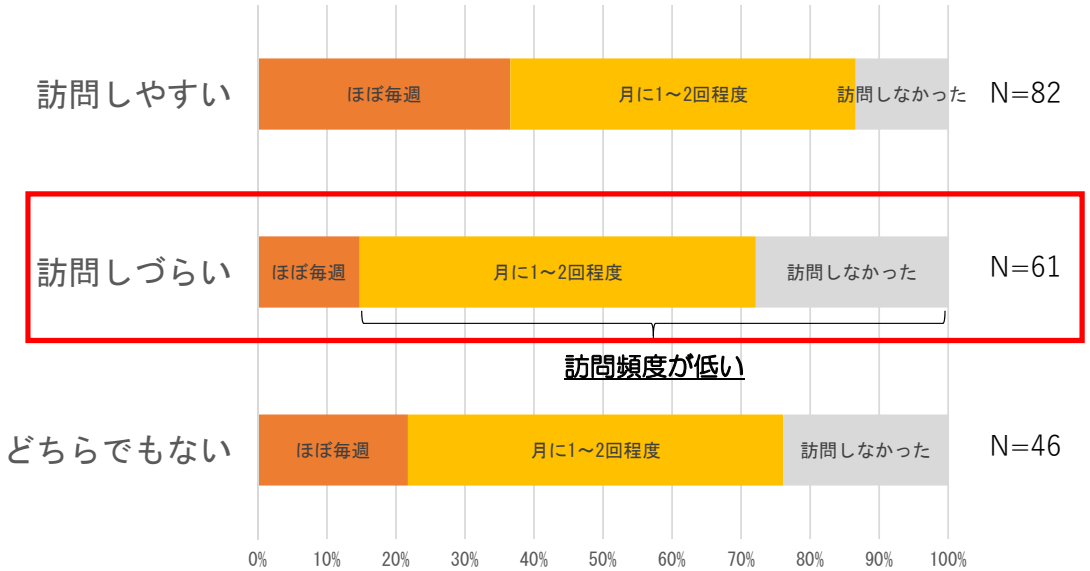


図　中心市街地への訪問のしやすさとその頻度

●中心市街地への訪問実態⑤

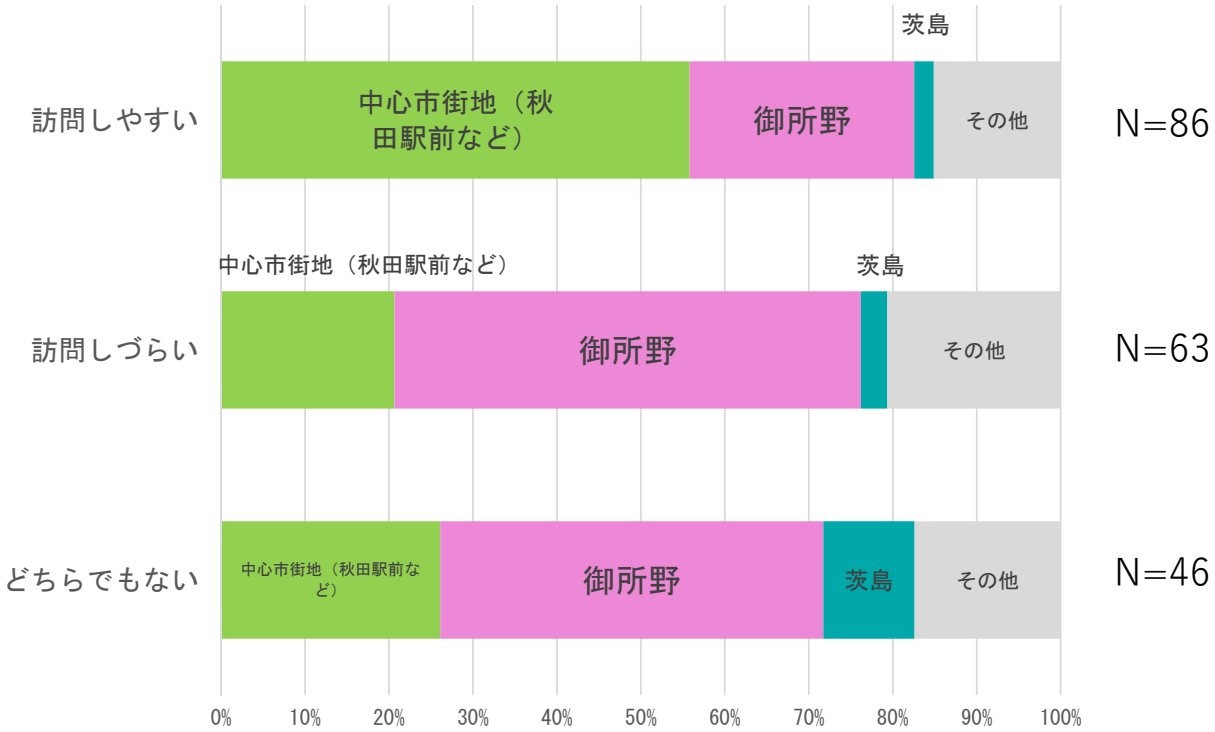
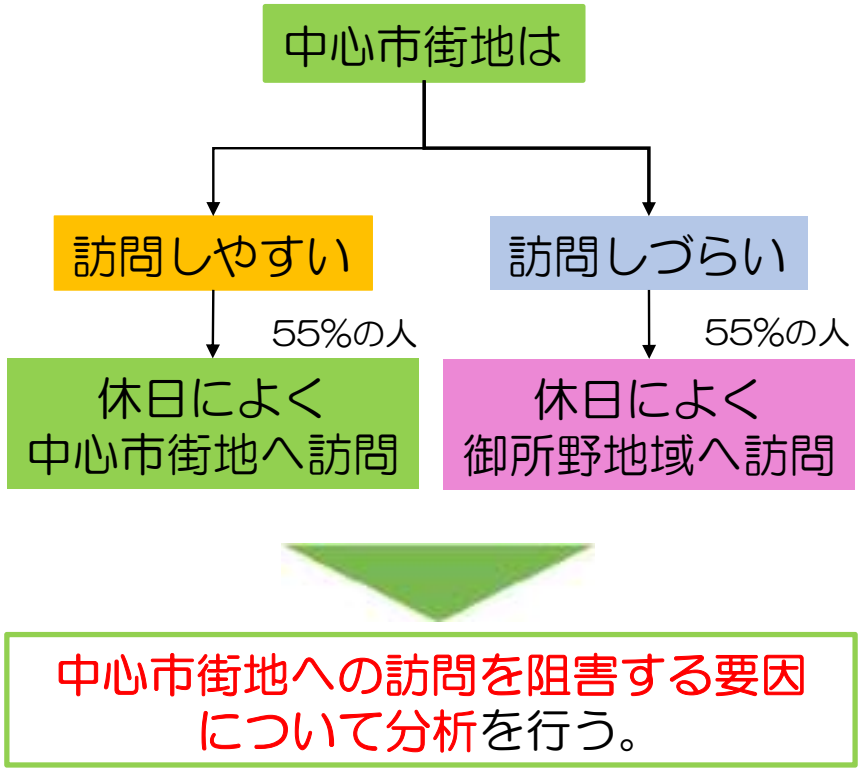
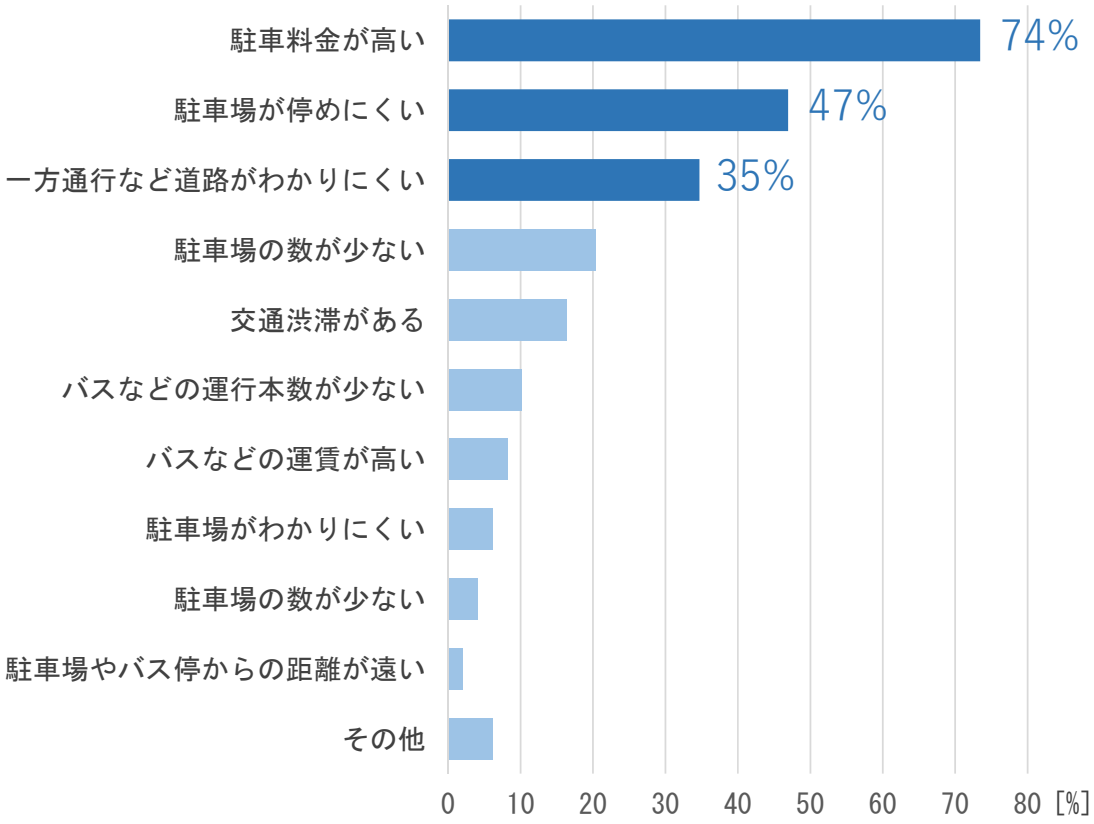


図　中心市街地への訪問のしやすさと休日によく訪問する地域



●中心市街地への訪問実態⑥



【中心市街地への訪問を阻害する構成要素】

休日に中心市街地以外を訪問する方の
中心市街地訪問の阻害要因として
「駐車料金が高い」
「駐車場が停めにくい」
「一方通行など道路がわかりにくい」
ことが挙げられる。

図　中心市街地の訪問のしづらさ（外出地域が中心市街地以外）　[N=49]

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

●中心市街地への訪問実態⑦

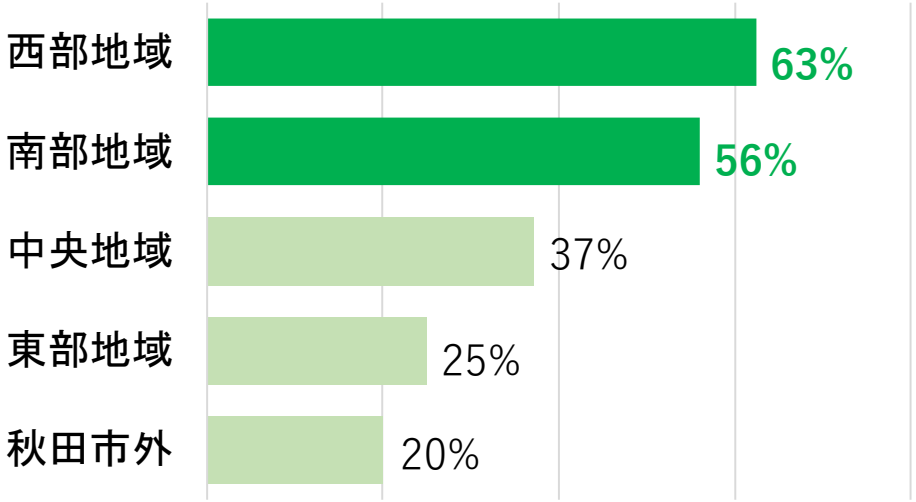


図　中心市街地を訪問しづらい割合（居住地別）

- 居住地が西部・南部地域の方は訪問しづらい割合が高い。
- 居住地域に関係なく、**秋田市内の方は駐車料金の高さが来街の阻害要因**に挙げている。
- 居住地が**秋田市外の方の7割が広小路・中央通りの一方通行などの道路に対してわかりにくい**と感じている。

駐車料金の適正価格の検討

⇒福岡市天神地区では「駐車料金の上限設定＋バス片道無料」の対策を講じている。

広小路・中央通りを対面通行にする

⇒**アクセス性や道路の分かりやすさが改善する。**

	一方通行など道路がわかりにくい	駐車場がわかりにくい	駐車料金が高い	駐車場が少ない	駐車場が停めにくい	交通渋滞がある
西部地域	0	0	80%	20%	80%	20%
南部地域	36%	0	93%	21%	29%	0
中央地域	35%	9%	78%	35%	57%	9%
東部地域	10%	0	50%	30%	50%	10%
秋田市外	71%	14%	43%	0	14%	57%

図　訪問阻害要因（居住地別）　100%～70%　69%～30%　29%～0%

●広小路バザールへの参加実態①

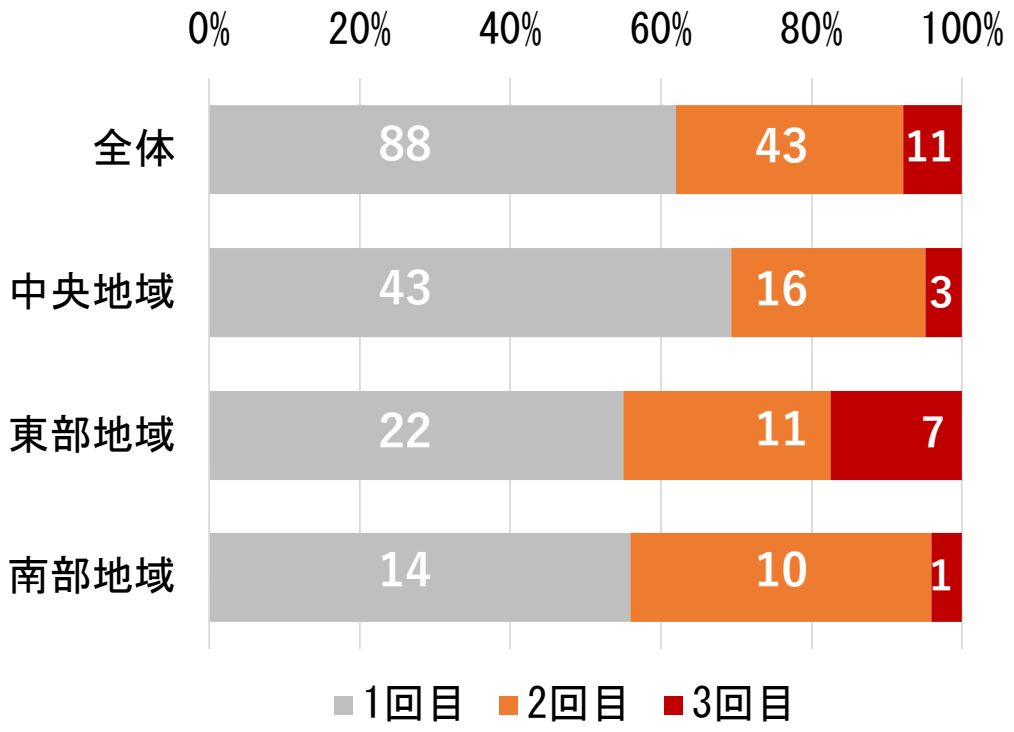


図　広小路バザールの参加回数(居住地)

イベント開催地から

- 近い地域の方（中央・東部地域）
- 遠い地域の方（南部地域）

→ 複数回参加

イベントをきっかけに居住地域に関係なく、中心市街地を訪問していることが分かる。

●広小路バザールへの参加実態②

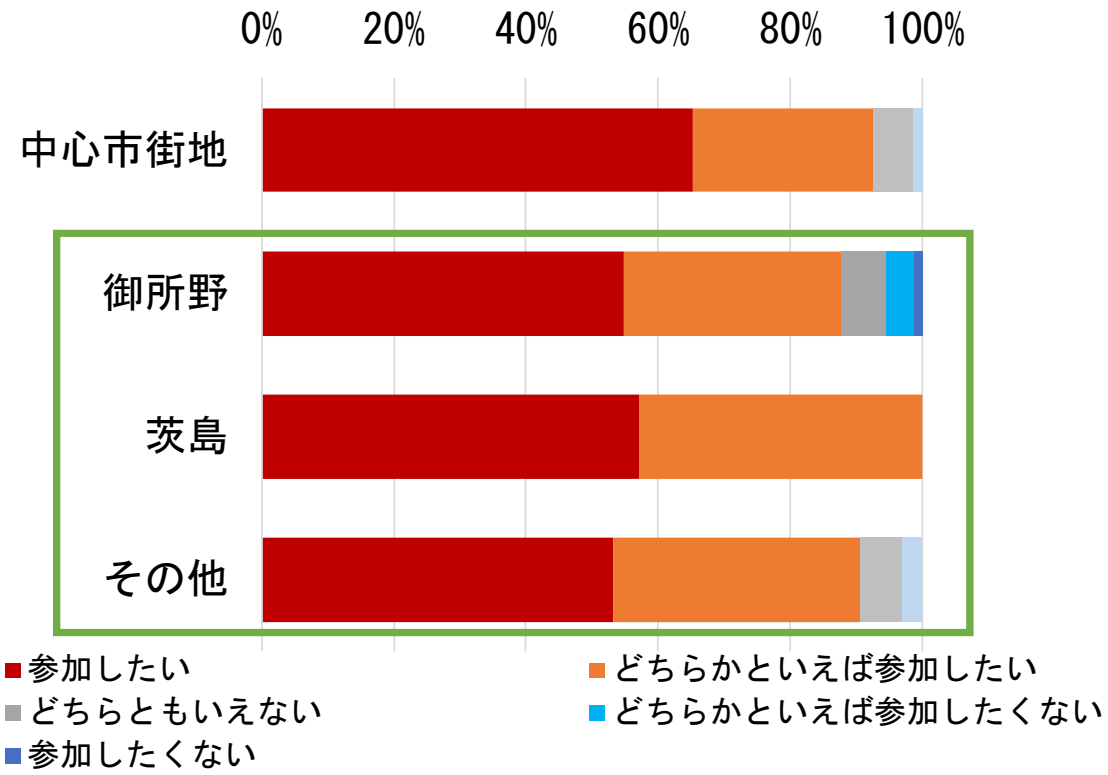


図　今後のイベント参加意欲（外出地域）

休日によく外出する地域

- 中心市街地
- 御所野
- 茨島
- その他

→ 参加意欲が高い

イベントをきっかけに外出地域に関係なく、中心市街地を訪問したいと感じている。

●広小路バザールの開催結果①

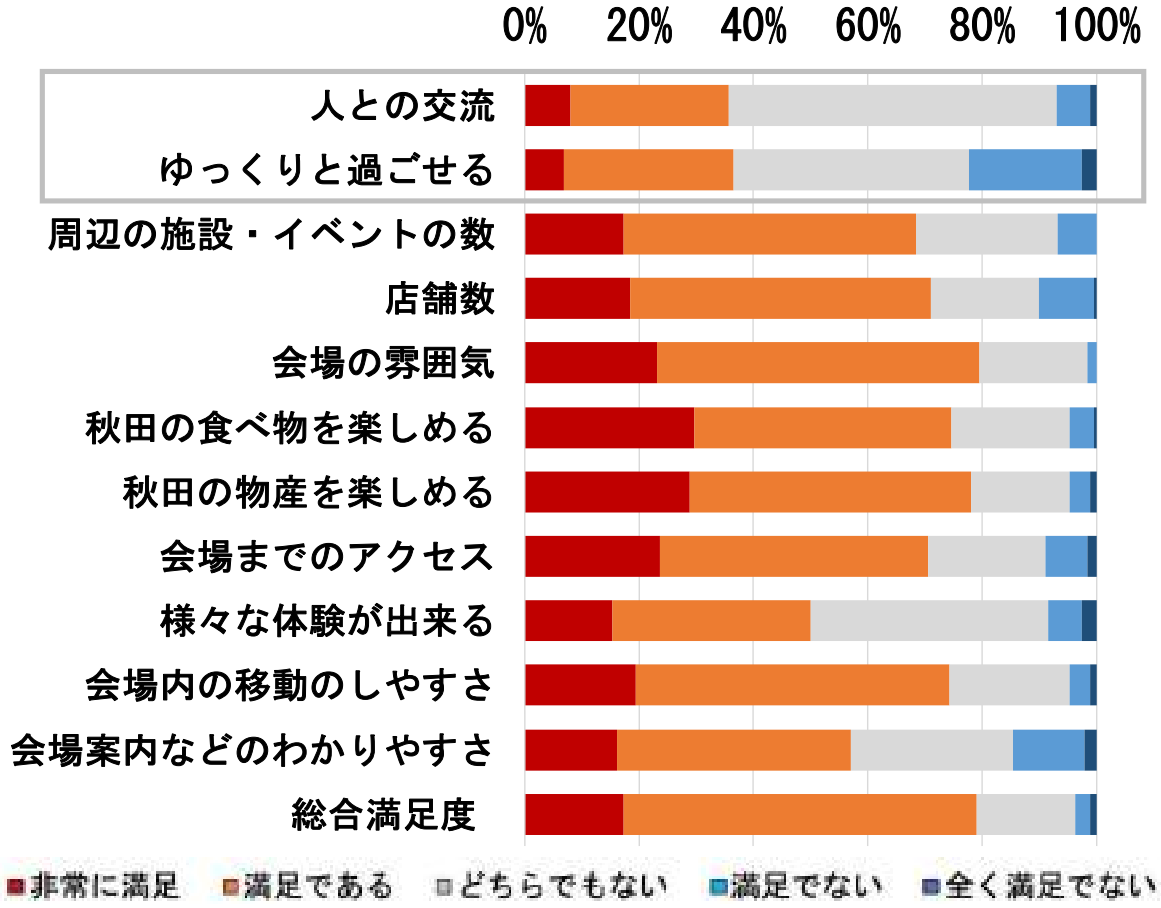


図　広小路バザールの満足度

満足度が低い要因

人との交流 → Covid-19による影響

ゆっくりと過ごせる → イスやテーブルが少ない / 駐車料金問題 / 日陰が少ない

周辺道路の渋滞対策

⇒交通規制の事前告知と当日の迂回誘導の徹底、千秋久保田町交差点の信号機の時間調整により目立った渋滞は生じなかった。

周辺施設への影響・効果

⇒飲食店、小売店ともに来店客数、売上高が増加。
⇒駅前商業施設では平時の110%～145%の売上高。

●広小路バザールの開催による回遊行動①

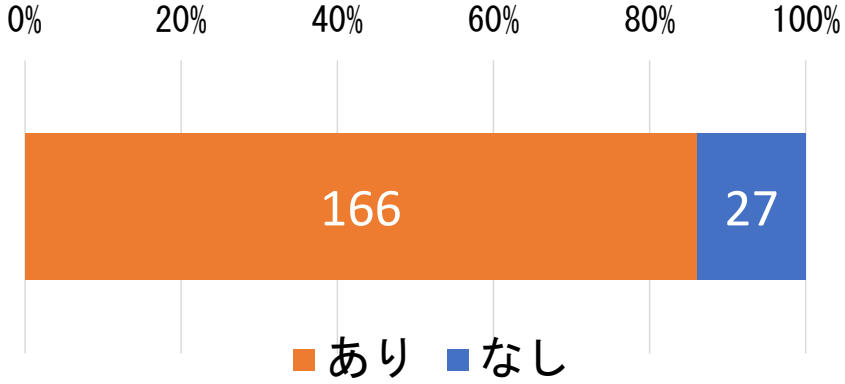


図　広小路バザール当日での訪問施設の有無

- イベント当日に、およそ8割の参加者が中心市街地のいずれかの施設へ訪問していた。

●商業施設・店舗
●文化施設（音楽・芸術鑑賞・図書館など）
●飲食店
●千秋公園
●その他

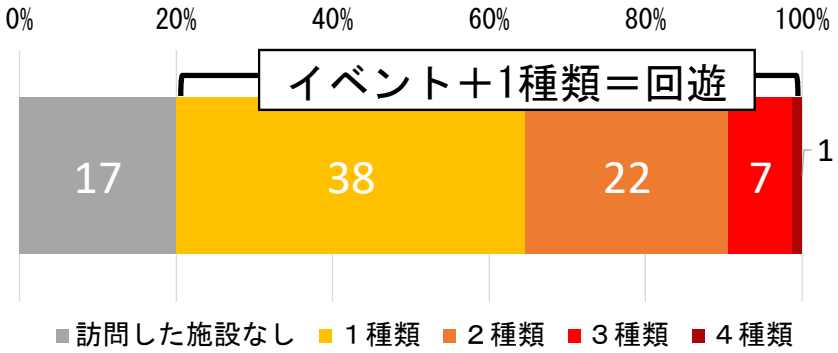


図　普段の中心市街地の訪問施設が1種類のみの被験者がイベント当日に回遊した施設の種類数

- 普段、秋田市中心市街地へ1つの目的かつ1種類のみの施設を訪問している方は、イベント当日に数種類の施設へ訪問していることが分かった。
- 当日にイベントに参加したことと他の施設へ訪問したことを回遊と定義すると、8割の方が回遊行動をとっていた。

●広小路バザールの開催による回遊行動②

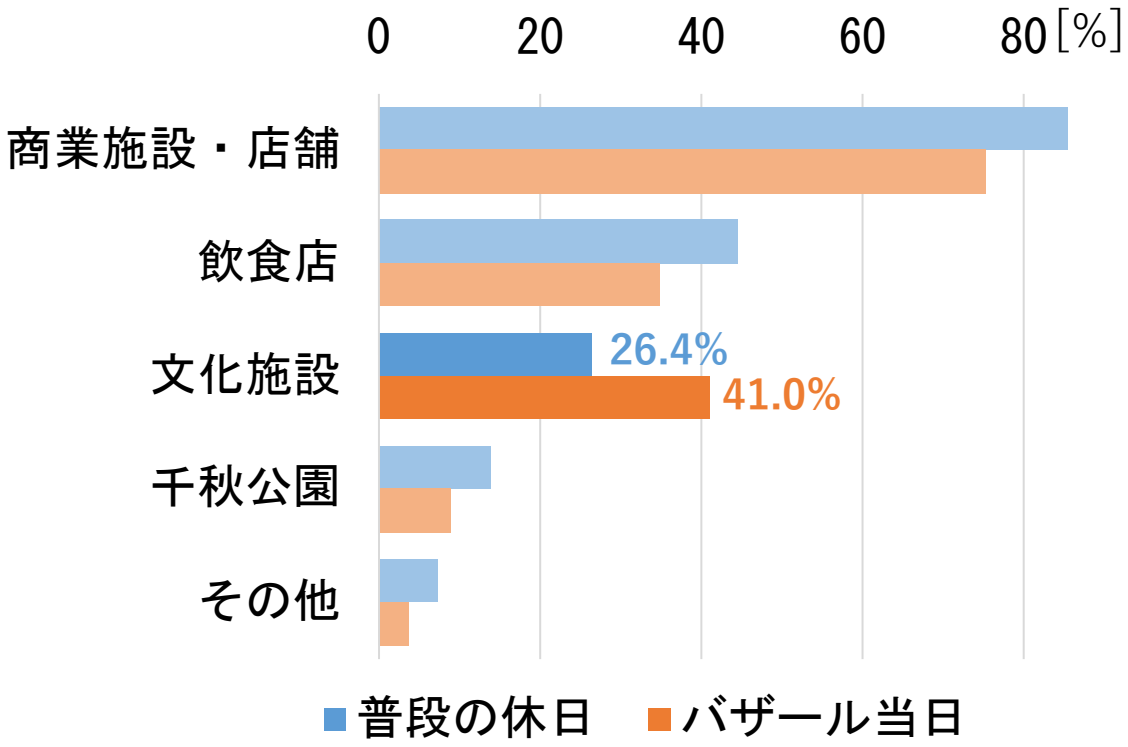


図　中心市街地での訪問施設

普段の休日

- 「商業施設・店舗」の割合が圧倒的に高い。
- 次いで「飲食店」「文化施設」を訪問している。

バザール当日

- 「商業施設・店舗」の訪問割合は70%以上。
- バザール当日は「文化施設」の訪問割合が14.5%増加している。当日はあきた芸術劇場ミルハスや秋田市文化創造館等の文化施設とも連携して催事を行ったためと推測される。
- 普段「文化施設」へ訪問しない3割の方が当日訪問していた。

●広小路バザールの開催による回遊行動③

・休日、広小路バザール当日ともに、公共交通利用者の回遊性が高いことが分かる。
・自家用車利用者は、駐車料金などの時間的制約や広小路・中央通りの一歩通行が不便であるなどの理由により、公共交通利用者よりも回遊性が低いと推測される。

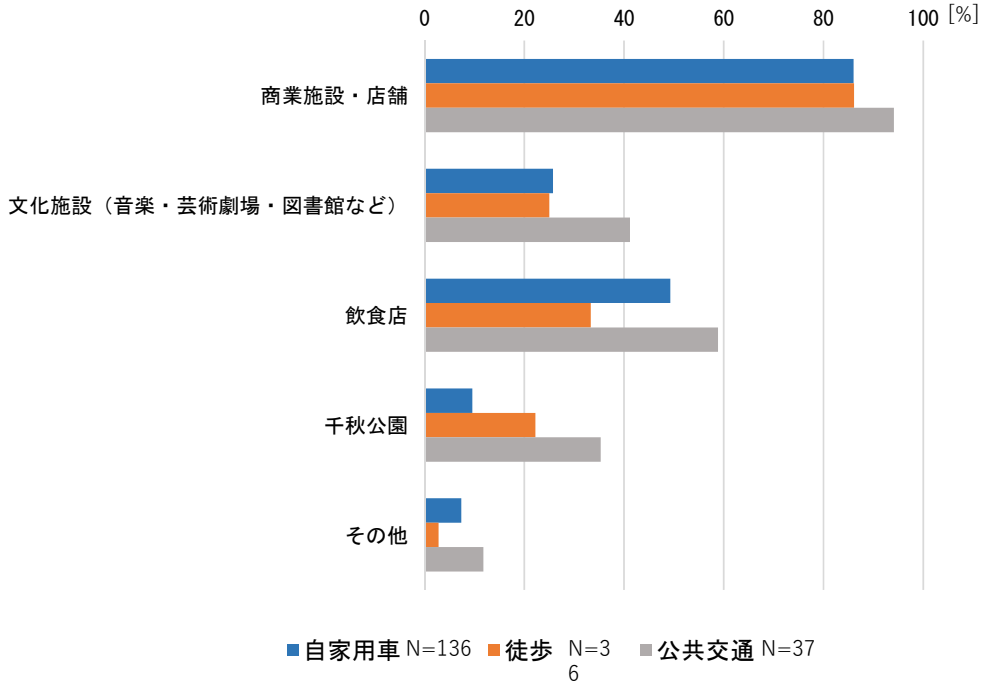


図　休日の中心市街地の訪問施設とその交通手段

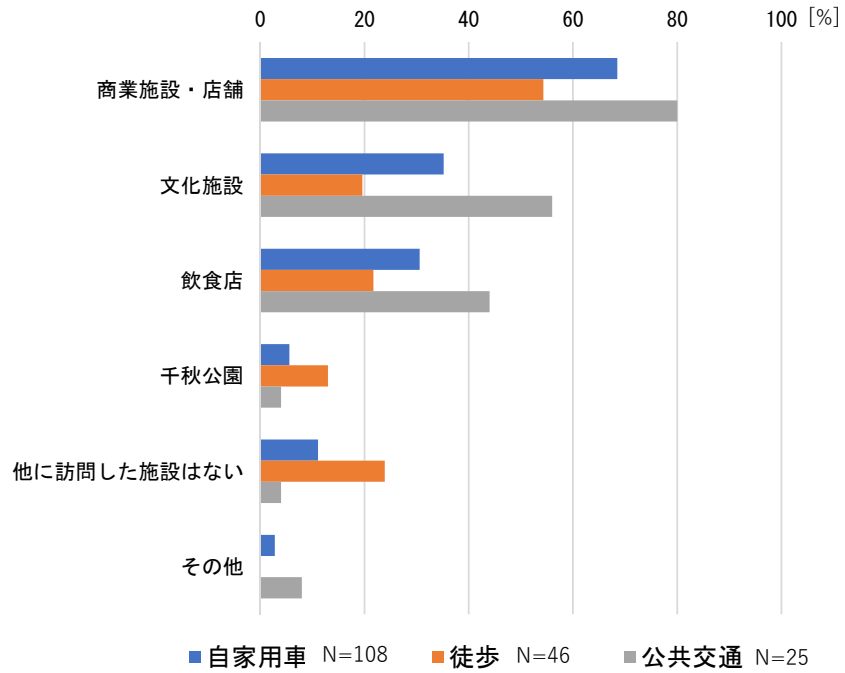


図　広小路バザール当日に中心市街地で訪問した施設とその交通手段

●広小路バザールの開催による回遊行動④

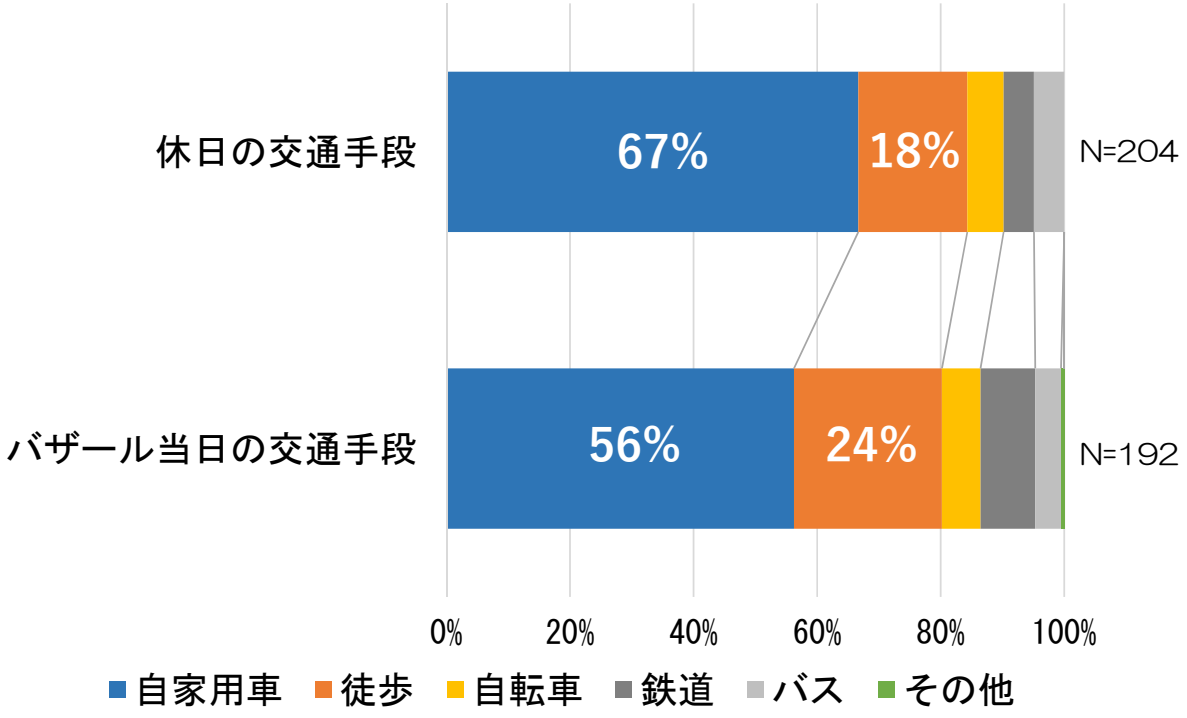
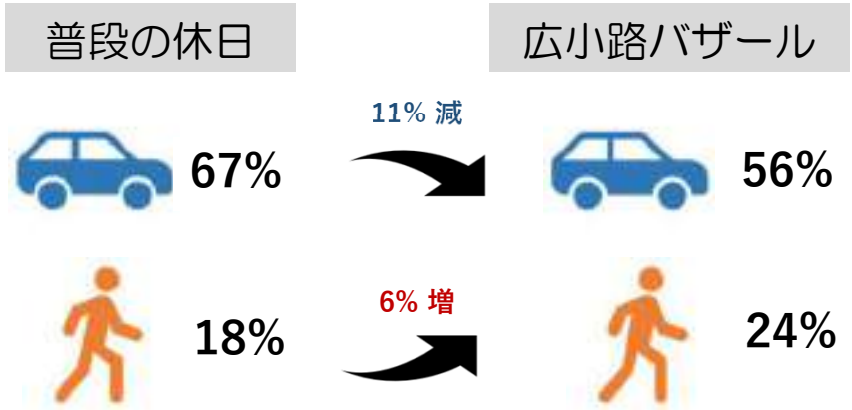


図　休日とバザール当日の中心市街地への交通手段



- 中心市街地をゆっくりと過ごすために、特に近隣住民が「徒歩」を選択したと推測。

●広小路バザールの開催による回遊行動⑤

- 休日に中心市街地へ自家用車で訪問している方について、バザール当日はバスや鉄道の公共交通に一部シフトしていることが分かる。

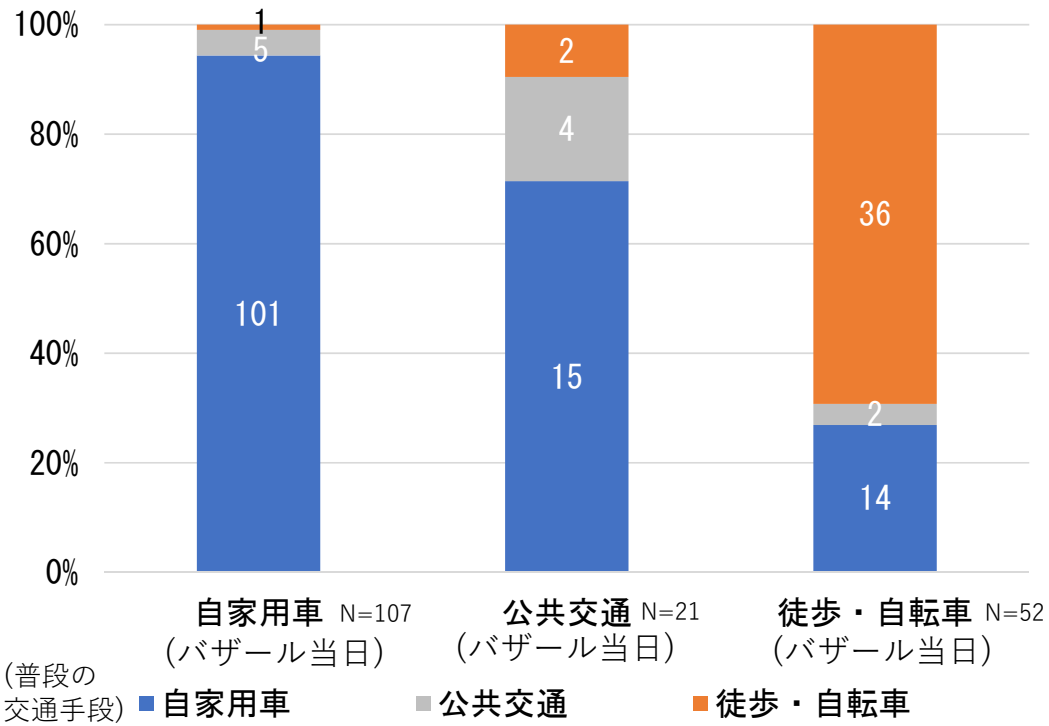


図　バザール当日の中心市街地への交通手段（普段の交通手段）

- 道路混雑を予測した方やイベントを含め中心市街地でゆっくり過ごしたい方は、公共交通機関の利用にシフトしたと推測する。

広小路バザール当日

21人の内、15人の方が自家用車からの転換

52人の内、14人の方が自家用車からの転換

●広小路バザールの開催による賑わい創出①

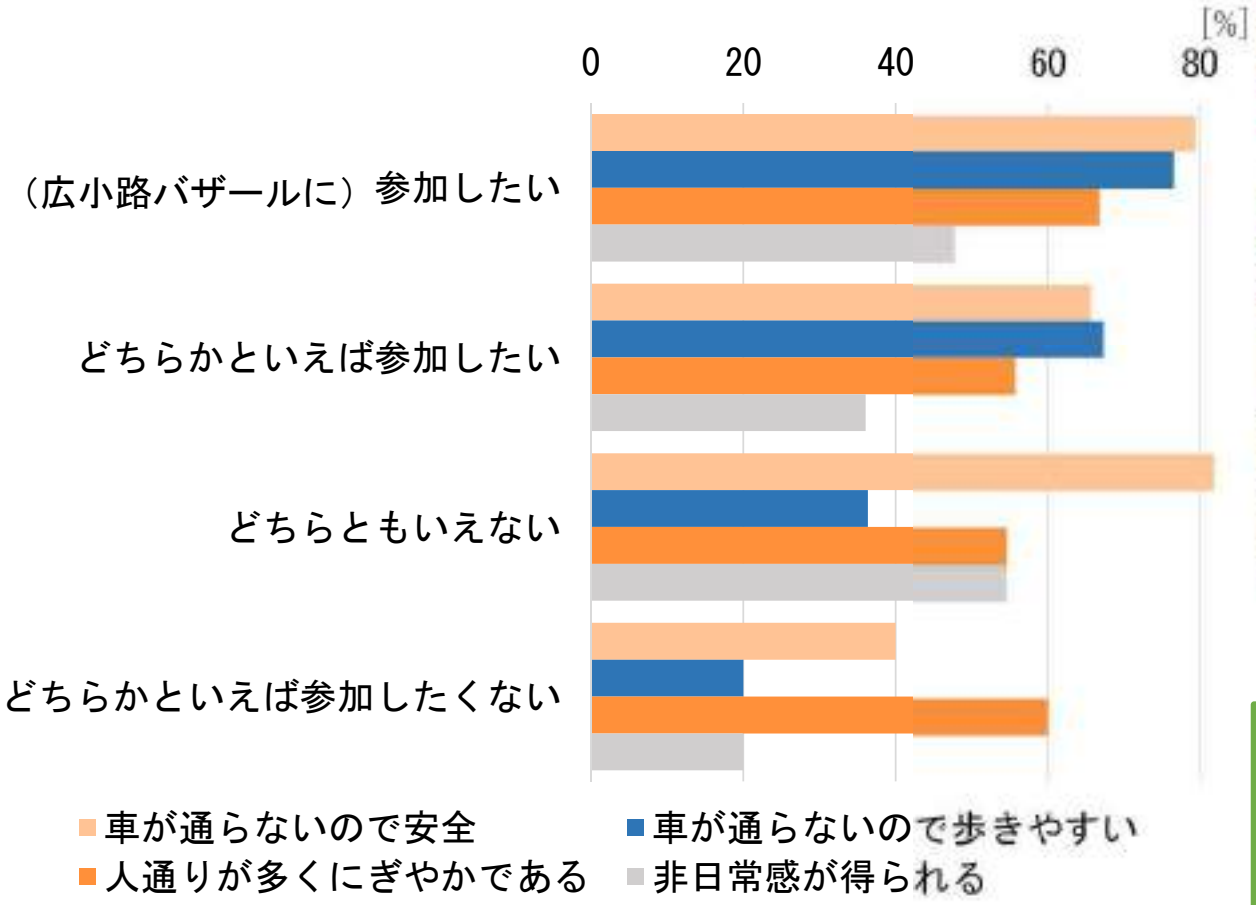


図　歩行者天国について感じたこと（今後の参加意欲）

図　広小路バザールの風景

- 中心市街地の主要な道路「広小路」を歩行者天国化させたイベント
- 3回まで開催を重ねるごとに参加者がおよそ1万人ずつ増加している。

●広小路バザールの開催による賑わい創出②

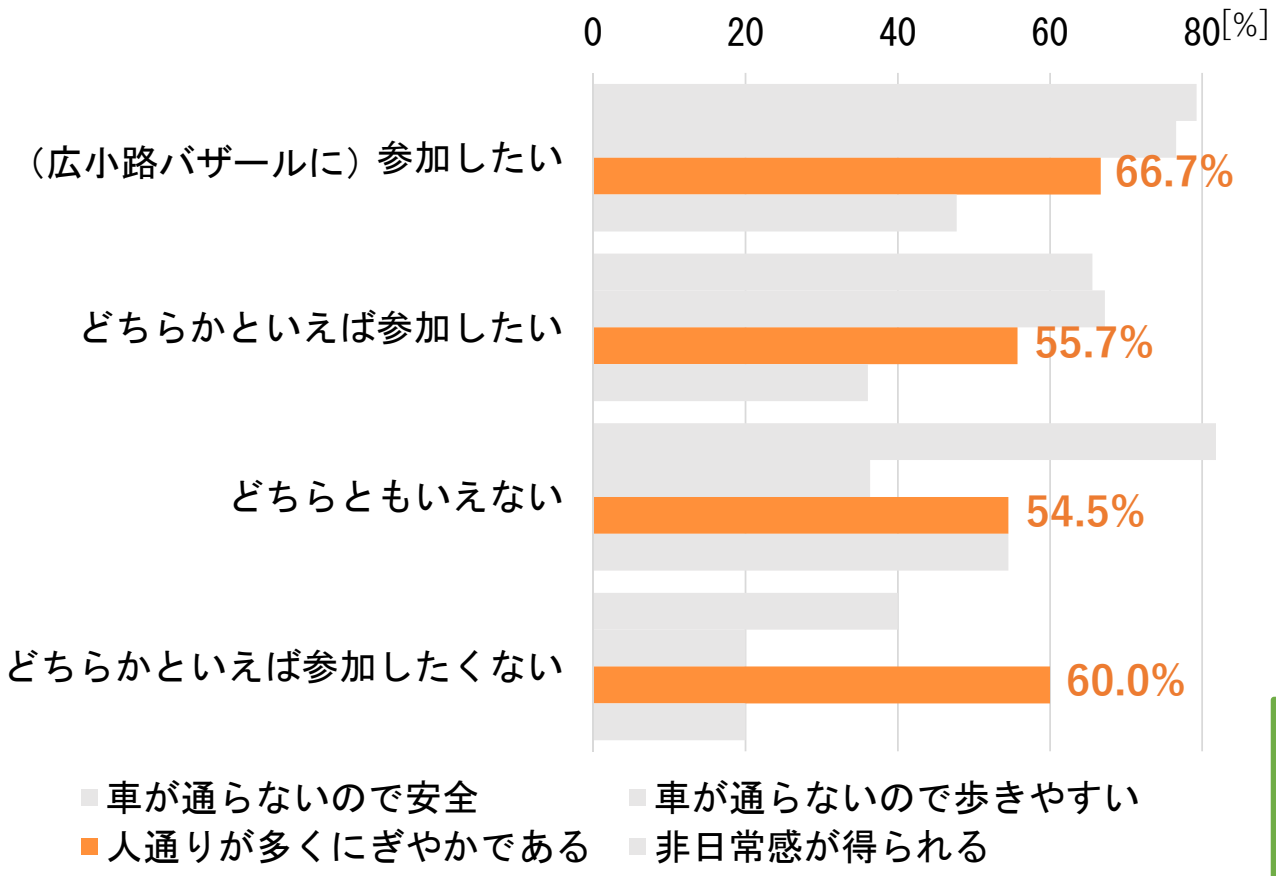


図　歩行者天国について感じたこと（今後の参加意欲）

図　広小路バザールの風景

- 今後のイベントの参加意欲に関係なく、「人通りが多くにぎやかである」と感じている。

●広小路バザールの開催による賑わい創出③

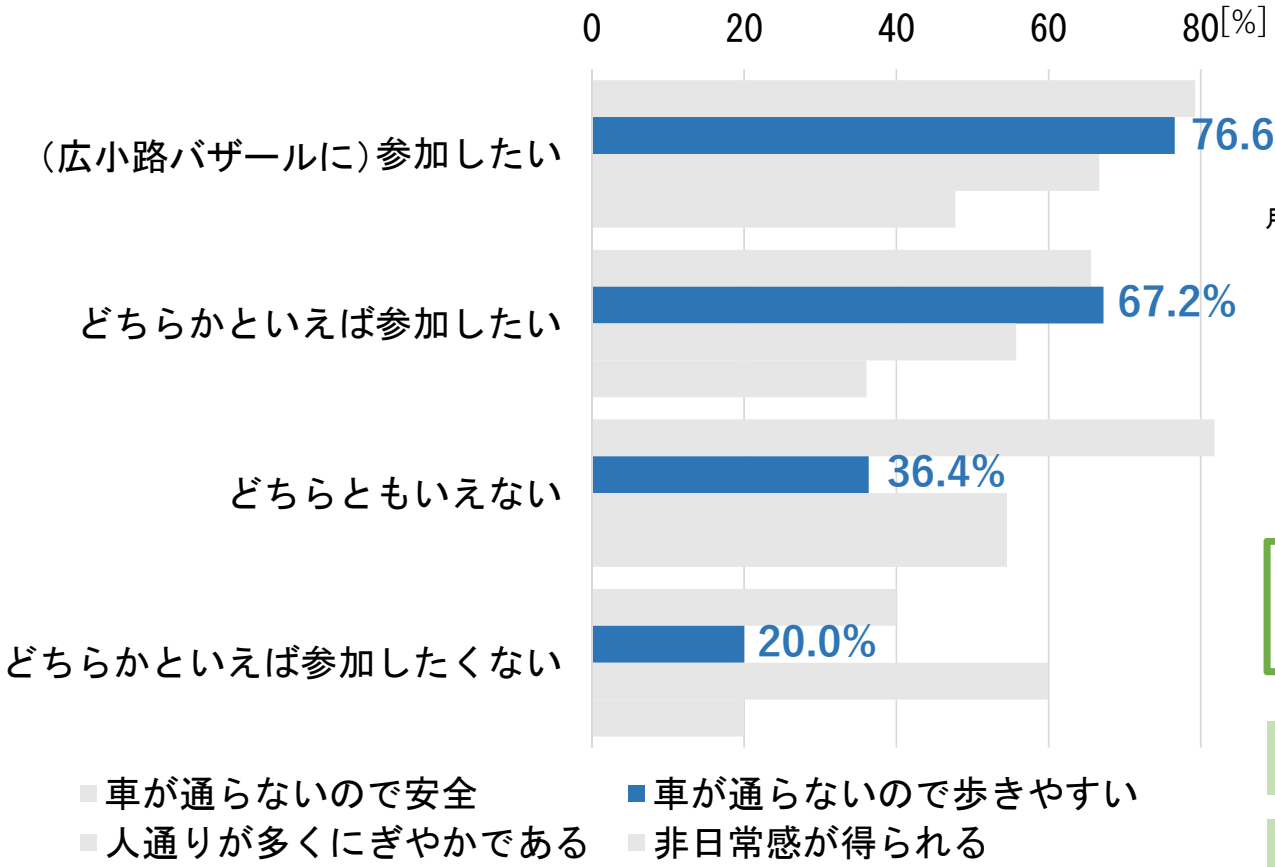


図　歩行者天国について感じたこと（今後の参加意欲）

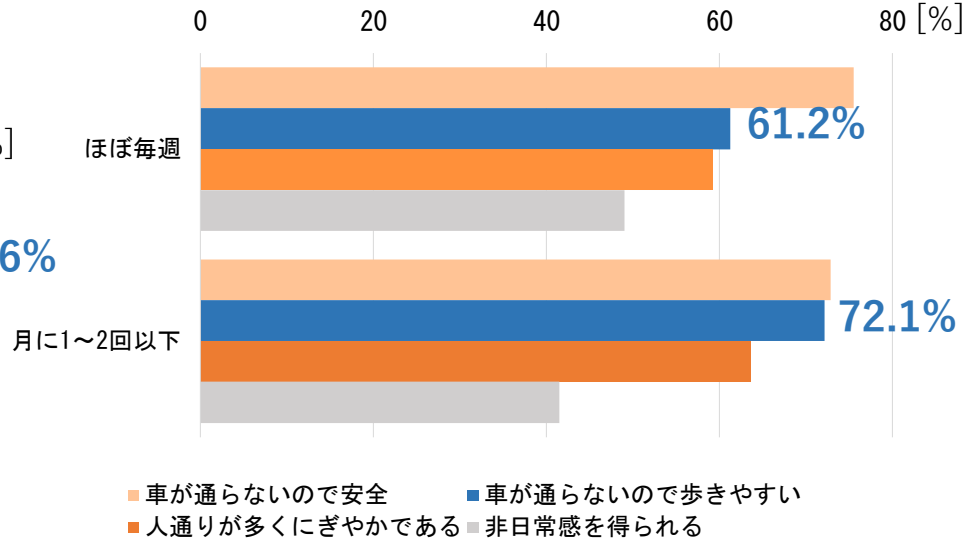


図　歩行者天国について感じたこと（訪問頻度）

- 参加意欲に比例して歩行者天国は歩きやすいと感じている。

広小路バザール

歩行者天国

→ 中心市街地

賑わい創出に寄与

●アンケートの自由記述欄より①

・アンケート回収数が193票の内、記述数が107票と大変多くの方々から、普段の中心市街地や、広小路バザールについての感想・意見が寄せられた。

50代 女性　）

歩行者天国にすることで、駅前から広小路まで人が集まると思った。バザール以外に周辺でイベントが重なることも良かった。

50代 男性　）

毎年やって欲しいです。いや、極端なことを言うと歩行者天国は毎週やって欲しい。

30代 女性　）

普段中心市街地へ来る時は自家用車を使用しているため、今回のイベントの様な時に広範囲で道路が通行止めになってしまうが不便に感じた。

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

●アンケートの自由記述欄より②

- 文章中から有益な情報を取り出すことを目的に「共起ネットワーク」を作成。文章内の単語の出現頻度や相関関係を可視化させた。
- 中心市街地への訪問頻度と自由記述の単語の関係性を分析した。

※円の位置や近さは関係ない

- 訪問頻度同士が共起しているほど色が濃くなっている。訪問頻度に関係なく「人」「イベント」の単語が含まれていることが分かる。
- 共起が独立している「暑い」「場所」等の単語は特異性を持っている。
- 各単語の指す感情・意味の分析を行う。

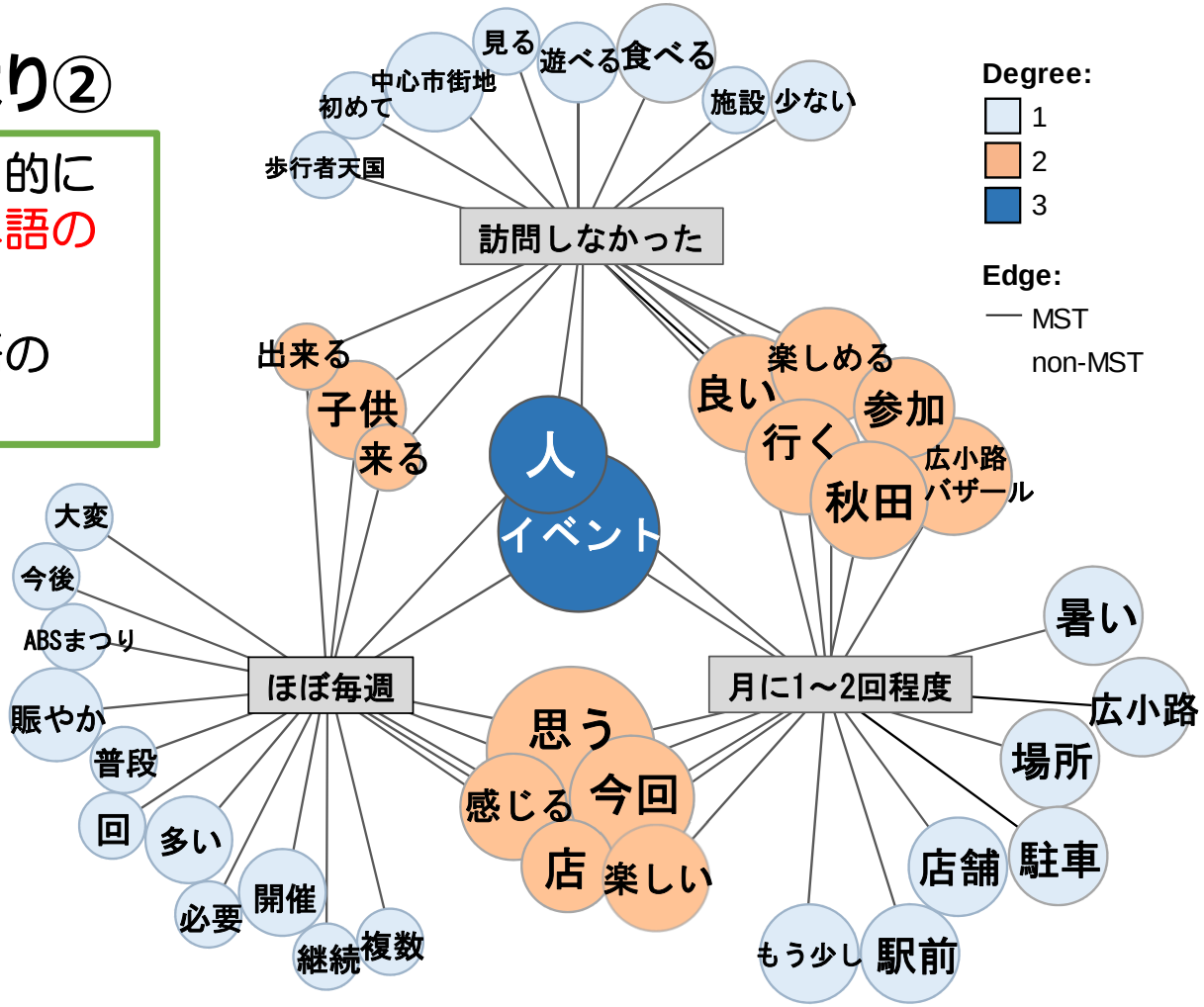


図　自由記述による共起ネットワーク（中心市街地への訪問頻度）

●アンケートの自由記述欄より③

【この1か月での中心市街地への訪問頻度別に見た発見】

訪問しなかった方

- イベントを機に新たなお店の発見につながった。
- イベントや歩行者天国から中心市街地に興味を持った。
- 中心市街地は子どもが遊べる場所が少ないから訪問していない。

月に1～2回程度の方

- 駐車場の問題等で普段、中心市街地へ訪問していない。
- イベント内の休憩場所をもう少し増やしてほしい。

ほぼ毎週の方

- 今後も継続して広小路バザールの開催を期待。
- イベントの開催回数を増やしてほしい。
- 普段の中心市街地も賑やかになってほしい。

中心市街地におけるソフト事業の重要性を再確認することが出来た。

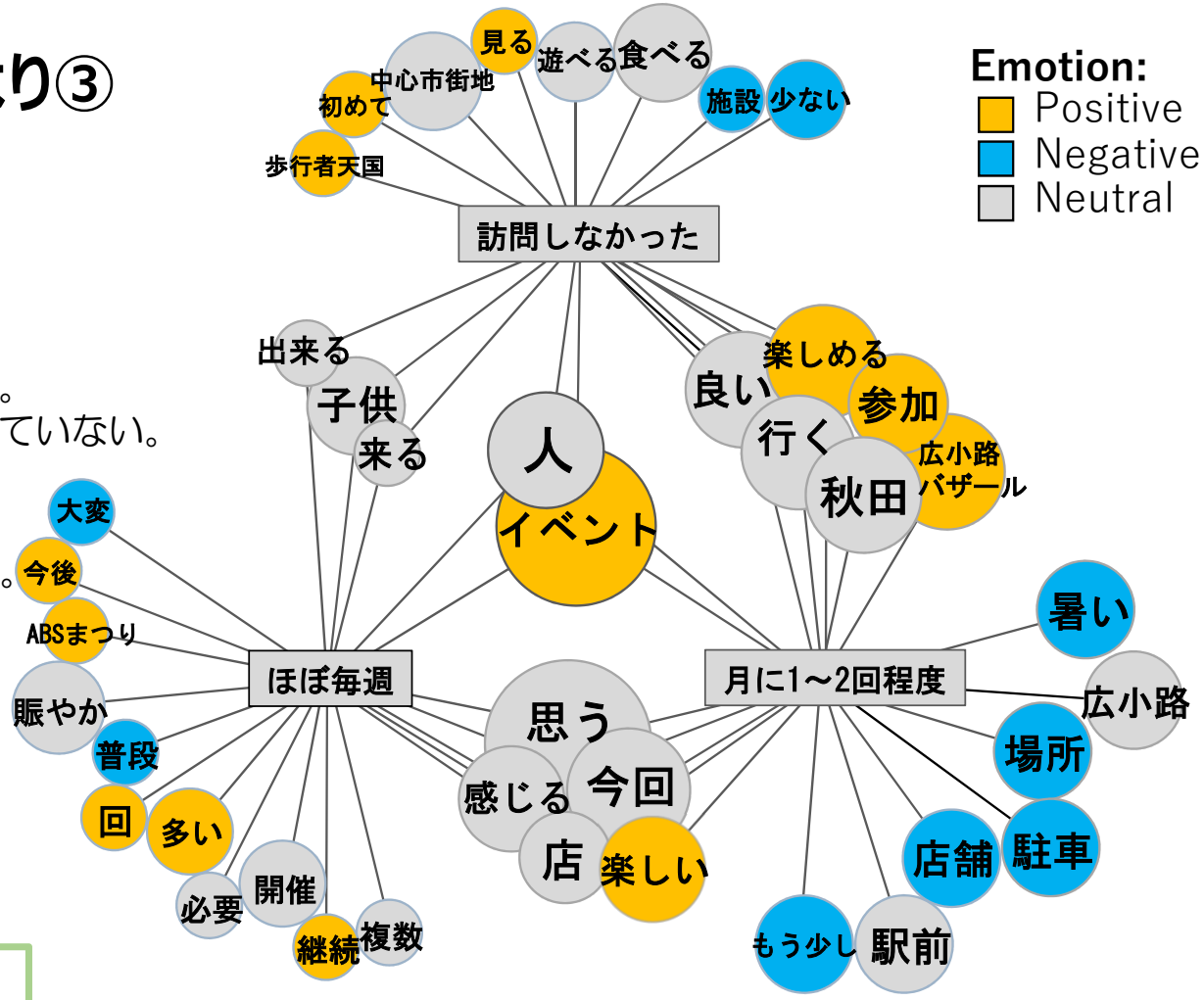


図　共起ネットワークによる単語の指す感情（中心市街地への訪問頻度）

（３）対面通行化のメリット･デメリット①
【メリット①／来街性】

①来街性

②回遊性

③賑わい創出

交通面

・駅東西間のアクセスルートが多様となり、交通の分散を図ることができる。

・初めて秋田市中心市街地へ車などで訪問する人は、一方通行よりも対面通行のほうが分かりやすい。

イベント面

・自分の興味のある内容のイベントが多ければ、中心市街地へ訪問したいという意識が生まれる。

（３）対面通行化のメリット･デメリット②
【メリット②／回遊性】

①来街性

②回遊性

③賑わい創出

交通面
・目的施設へのアクセスが容易となる。

観光面
・秋田市中心市街地に不慣れな観光客等が安心して走行できる。
※交通安全の向上も期待できる

イベント面
・自動車の迂回路が確保されることなどにより、イベント開催時も中心市街地内を回遊しやすくなる。
・広小路バザールのようなイベント開催により、普段中心市街地で訪問しない施設（文化施設など）にも足を運ぶきっかけとなる。

（３）対面通行化のメリット･デメリット③
【メリット③／賑わい創出】

①来街性

②回遊性

③賑わい創出

交通面

・広小路等を交通規制するイベント開催時に、中央通りが迂回路となり交通渋滞の緩和が期待される。

→歩行者天国化が容易となり、大規模な賑わい創出イベントの定期開催が期待できる。

・対面通行化による交通環境の変化により、新規出店や低未利用地の新たな活用が期待される。

イベント面

・広小路バザール開催時、広小路・中土橋通りが歩行者天国化し、道路上の歩行者の流量を増加させ、大規模な賑わいを創出した。

・回遊性が高まることで、消費も高まり、波及効果が生まれる。

・広小路バザールのようなイベント開催により、普段中心市街地で訪問しない施設（文化施設など）にも足を運ぶきっかけとなる。【再掲】

Ⅱ．対面通行化による効果の検証

（参考）広小路等を歩行者天国化する既存イベント

イベント名	時期（目安）	備考
これが秋田だ！食と芸能大祭典	5月	2022年度は東北絆まつりと同時開催 2023年度は交通規制を伴わない開催方式を検討
与次郎駅伝	7月	2022年参加者：900名エントリー
広小路バザール	7月、9月頃 年2回	2022年来場者：計7万人
千秋花火	9月	2022年来場者：5万人
秋田ファミリーマラソン	10月	2022年参加者：300名エントリー

（３）対面通行化のメリット･デメリット④
【デメリット①／車両の混雑】

①車両の混雑

②交通事故の防止

③物流・旅客車両への配慮

④路線バスの運行

・対面通行化により、現状よりは混雑（渋滞）することが予想される。

※ただし、前述のとおり周辺の道路整備により、迂回等がしやすくなり交通の分散が図られつつある。

（３）対面通行化のメリット･デメリット⑤
【デメリット②／交通事故の防止】

①車両の混雑

②交通事故の防止

③物流・旅客車両への配慮

④路線バスの運行

・市民等への事前周知、標識設置など十分な対応が必要。

・対面通行が浸透するまでである程度の期間を要する。

※一方、逆走等による事故防止が期待される。

（３）対面通行化のメリット･デメリット⑥
【デメリット③／物流･旅客車両への配慮】

①車両の混雑

②交通事故の防止

③物流・旅客車両への配慮

④路線バスの運行

・バスベイ、荷捌き停車スペース、タクシー乗降場所の確保が必要。

・上記以外は路上駐車禁止を検討。

（３）対面通行化のメリット･デメリット⑦
【デメリット④／路線バスの運行】

①車両の混雑

②交通事故の防止

③物流・旅客車両への配慮

④路線バスの運行

- （3車線を維持したまま対面通行化する場合、）
  路線バスの運行は、バスベイの確保等を考慮し、現状の反時計回りのみのワンウェイとすることが望ましい。

（４）対面通行化の有効性

これまでの調査結果を踏まえ、中心市街地の賑わい創出の観点で、広小路と中央通りの対面通行化の有効性を以下のとおり考察する。

来街の実態	来街の阻害要因	改善策	期待される効果
・来街しやすいと感じている人の55%がよく訪問している	①駐車料金が高い （来街しても滞在時間が短い）	・秋田市商店街共通駐車券を実施（済） ※店舗等での購入金額に応じ共通駐車券を配布	＜アクセス性の改善＞ ・目的地に到達しやすい（観光客に分かりやすい） ・交通量が分散される ・逆走等による事故の防止
	②駐車場が停めにくい 駐車場の構造	（駐車場運営者の判断による）	＜賑わい創出＞
・来街しづらいと感じている人の55%は御所野地域を訪問（中心市街地は約20%に留まる）	駐車場へのアクセス ③一方通行など道路が分かりにくい	・対面通行化で課題解消	・ホコ天催事が開催しやすくなる（迂回路の確保） ・催事開催による「回遊性向上、消費拡大」 →中心市街地への波及効果 ・交通環境の変化により新規出店等が期待される

（５）ハード･ソフト事業による相乗効果

【ソフト事業の有効性】
➡訪問意欲の向上
➡**新たなお店の発見**に寄与
➡**リピート客**が存在・**遠い地域からの来訪**
➡居住地の選定
➡**普段訪問しない施設への訪問**
➡**経済波及効果**を創出

【ハード事業の有効性】
➡**アクセス性の向上**
➡**来街者の増加**
➡暮らしやすさの向上
➡居住者の増加
➡**都市の魅力向上**

➡恒常的な賑わい創出
➡人口増加
➡経済力の向上
➡空き店舗へ新規出店

➡ 都市活性化の円滑化

Ⅲ．総評

全国的な道路空間の利活用の変化

- 国土交通省では、人中心の賑わい創出等に資する空間へと再構築する取組を推進している
- 近県では、山形県鶴岡市での一方通行の解除や、宮城県仙台市でのウォーカブル推進事業等が挙げられる

＋

秋田市中心市街地を取り巻く交通環境の変化

- 千秋久保田町線などの道路整備が進み交通の分散が図られていることから、賑わい創出の観点で交通環境の改善を検討する余地がある

秋田市中心市街地の賑わい創出

中心市街地への訪問阻害要因（⇒対応策）

①駐車場の料金
⇒秋田市商店街共通駐車券事業による対応

②駐車場の停めにくさ

③一方通行などの道路の分かりにくさ
⇒広小路・中央通りの対面通行化による対応

※仲小路は秋田市のコミュニティ道路として整備されたことを踏まえ、現状の一方通行が望ましい

対面通行化により期待できる効果

- 観光客やミルハス等各施設への来館者など市外在住者の来街のしやすさが向上する。逆走等による交通事故防止も期待される
- 迂回路が確保され、交通規制を伴う大規模催事が開催しやすくなる
  【催事開催による効果】
  ⇒回遊性向上により面的な賑わいが創出される
  ⇒周辺店舗の売上増加等の波及効果が生まれる
- 空き店舗への新規出店や低未利用地の利活用促進に向けた機運の醸成が図られる

Ⅲ．総評

対面通行化する際の課題

○既存の車線数のままでは交通渋滞が懸念される
【渋滞要因】
- バスを対面通行化した場合、バス専用レーンの運用が困難となる→バス停車時に渋滞が発生
- 右折レーンの設置により、交通容量が不足する
- 右折レーンを設置しない場合、右折車の後方で渋滞が発生する

- バス専用レーン、右折レーン設置のために道路を拡幅する場合は多額の用地補償費や、工事費が発生する

○中心市街地の交通のあり方に係る研究会では、上記課題があることから、一方通行解除が困難と結論付けている。（2019年3月公表）

課題への対応策

○周辺道路の整備
- 千秋久保田町線が対面通行化し交通量の分散が図られている
- 2028年には千秋山崎線が開通予定であり、駅東間の更なるアクセス向上が見込まれる

○路線バスの対応
- 路線バスの運行を現状の反時計回りのワンウェイルートとすることで、3車線のままで対面通行化の検討が可能と推察

○車線の運用方法
- 現状の「反時計回りを2車線（右折可）、時計回りを1車線（一部右折禁止）」の対面通行とし、現状の車線数を維持しつつ、交通容量を確保する

Ⅲ．総評

- 国土交通省の動向や全国の中心市街地等で一方通行解除が実施されていることを踏まえると、秋田市中心市街地においても従来の自動車通行の観点だけでなく、賑わい創出の観点で道路空間のあり方を見直す必要がある。その方策として、広小路と中央通りの対面通行化は有意義であり、早期の検討が望まれる。

- その背景として、秋田市外の在住者から「一方通行など中心市街地の道路が分かりにくい」という声が多いことが挙げられる。秋田市中心市街地においては、あきた芸術劇場ミルハスの来館者や新たに建設されるマンション入居者など、今後、県外から中心市街地に訪れる方が増加することが見込まれることから、来街しやすい・回遊しやすい交通環境の構築が重要となる。

- また、広小路バザールなど広小路等を歩行者天国化する大規模催事の開催により、来場者の回遊性が高まり、面的な賑わいが創出されているとともに、周辺店舗の売上が増加し波及効果が生まれている。来場者からも歩行者天国の定期実施を望む声が挙がっている。

- 対面通行化により、交通規制時の迂回路が確保され、渋滞が緩和されることにより、歩行者天国の実施が容易となる。

- なお、対面通行化のためには、路線バスの対応や車線の運用方法など、様々な対応策を講じる必要があることから、対面通行化実現に向けた意識醸成や対応策の具体化を推進するために関係者による検討を深めていくことが必要である。

秋田市中心市街地の賑わい創出に向けた交通環境改善調査　報告書

２０２３年３月発行

発　　行　秋田商工会議所
（秋田市旭北錦町１番47号）

調査委託先　国立大学法人秋田大学
（秋田市手形学園町１番１号）

●本報告書の一部または全部を無断で複製、転載等をすることは法律で認められた場合を除き、著作権者の権利侵害となります。